

医療法人相生会
にしくまもと病院

令和5年度
(2023.4～2024.3)

年報

annual report



NISHI KUMAMOTO HOSPITAL

にしくまもと病院



理念

いつも患者さんに寄り添い、強く、優しい、優れた病院を目指します。

基本方針

1. あなたに寄り添い、心のかよった医療を提供します。
2. 医療人として常に向上心を持ち、進歩する、質の高い医療を提供します。
3. 職員一人ひとりを大切に、心豊かな輝く医療人となることを支援します。
4. あらゆる職種が信じあって協働する「チーム医療」を実践します。
5. 地域に根ざし、調和する、頼られる日本一の病院を目指します。

臨床倫理の基本方針

1. 患者の人権を最大限尊重するとともに、患者と病院職員が協力し、患者の利益を迫及するための最善の医療を提供します。
2. 患者個人の信条や価値観に十分配慮した上で、生命倫理に関する関係法令、ガイドライン及び院内規約の実施手順に従った医療を実施します。
3. 医学及び医療の進歩に必要な研究の実施や、倫理的な問題を含むと考えられる医療行為などについては、院外有職者を加えた当院「倫理委員会」において、倫理的・科学的観点から十分検討を行います。

患者の権利

1. 安全で良質な医療を受ける権利

患者さんは、安全で良質な医療を公平に受けることができます。

2. 十分な情報を知り、説明を得て自己決定する権利

病状や治療について事実を知り、納得するまで十分な説明を受け、意見を述べることができます。

また、他の病院の医師に意見（セカンドオピニオン）を聞くことができます。

3. 選択の自由の権利

治療方針を十分理解した上で、検査・治療などに、同意・選択・拒否することができます。

また、医療施設等を選択することができます。

4. 個人情報と秘密保持に関する権利

個人情報や医療に関する情報の秘密は守られます。

5. 尊重される権利

患者さんは、一人の人間として医療現場においても、その生命・身体・人格が尊重される権利を有します。

患者の責務

1. 情報を提供する責務

患者さんは、安全で良質な検査・治療を受けるために、医師をはじめとする医療従事者に対してみなさん自身の健康に関する情報を出来るだけ正確に提供していただきます。

2. 医療に協力する責務

患者さんは、安全で質の高い医療を受けるために、病院の規則を守り、提供される医療に協力して、出来るだけ健康的な生活習慣を身につける必要があります。

3. 他の患者さんの治療や療養に配慮する責務

すべての患者さんが適切な医療を受けられるために、病院の規則を守り、他の患者さんの支障を与えないよう配慮していただきます。



目次	1	
年報挨拶	病院長	2
病院概要	3	
組織図	4	
施設基準	5	
病院機能評価	6	
医師紹介	7	
講演・学術・研究発表	8	
イベントフォトカレンダー	10	
外来診療スケジュール	12	
看護部概要	看護部長挨拶	13
診療統計報告	15	
病院指標	16	
市町村別患者割合・救急車受入	17	
外来	18	
3階病棟	20	
4階病棟	21	
5階病棟	22	
6階病棟	23	
手術室・サプライ	24	
医療機器管理室	25	
セラピスト課・テクノエイドセンター	26	
薬剤課	28	
放射線課	29	
臨床検査課	30	
栄養管理課	32	
地域医療連携室	33	
訪問診療	34	
居宅介護支援事業所	35	
通所リハビリテーション	36	
訪問看護ステーション	37	
訪問リハビリテーション	38	
ホスピタウンハウス	39	
臨床薬理センター	40	
健診センター	41	
地域包括ケア推進室	42	
委員会実績報告	43	
医療安全管理委員会	44	
院内感染予防対策委員会	45	
褥瘡予防対策委員会	46	
CS・ES委員会	48	
研修委員会	49	
地域広域リハ	51	
ICD-10大分類による年齢別・性別統計	53	
編集後記	事務部長挨拶	54

年報挨拶



病院長 山口 浩司

日頃より私たちにしくもと病院に対しご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。
ございます。

2023年度の年報の発刊にあたりまして心より御礼申し上げます。

社会では新型コロナの話題は影を潜め、マスクを着用しない日常が戻っていますが、医療機関では命の安全との狭間で苦慮しながら、まだまだ全面解禁というに遠い毎日が続いております。日常にも良きにつけ悪きにつけコロナがもたらした新しい習慣が根付いてきているようです。

鳴りやまない戦争の音、自然災害の脅威は今も大きな不安を私たちにもたらしています。少子高齢化の時代へ突き進む私たちに突き付けられるのは厳しい数字ばかりです。働き方改革がもたらすのは福なのか禍なのか、これからの取り組みにかかっているようです。

この1年私たちは地域の医療に貢献するため、少しずつ進んでまいりました。一次、二次救急の受け入れは徐々に増加傾向にあり、ポストアキュートの受け入れ、在宅復帰率においても高い数字を維持してまいりました。秋には病院機能評価の更新にあたり、標準化の確認、業務改善に取り組みました。チーム医療の実践の中で医療・介護の質を継続して保ち、院内での新しい世代への権限移譲も徐々に進めております。

今年度、整形外科、糖代謝内科、在宅医療それぞれのエキスパートを新任医師として迎えることができました。医療を取り巻く厳しい時代を迎える、これからが本物の医療の在り方が問われるものと心新たにいたしております。

私たちは求められるケアミックス病院として地域に根差していきたいと思っています。急性期病院からは早期で質の高いポストアキュート機能、地域から必要とされるサブアキュート機能、そして慢性期疾患に対する高度で質の高い医療の提供に注力してまいります。

職員一人ひとりが時代の変化、医療の変革に勇気をもって取り組みながら、元来から変わらない理念を掲げて努力を続けてまいります。

病院概要



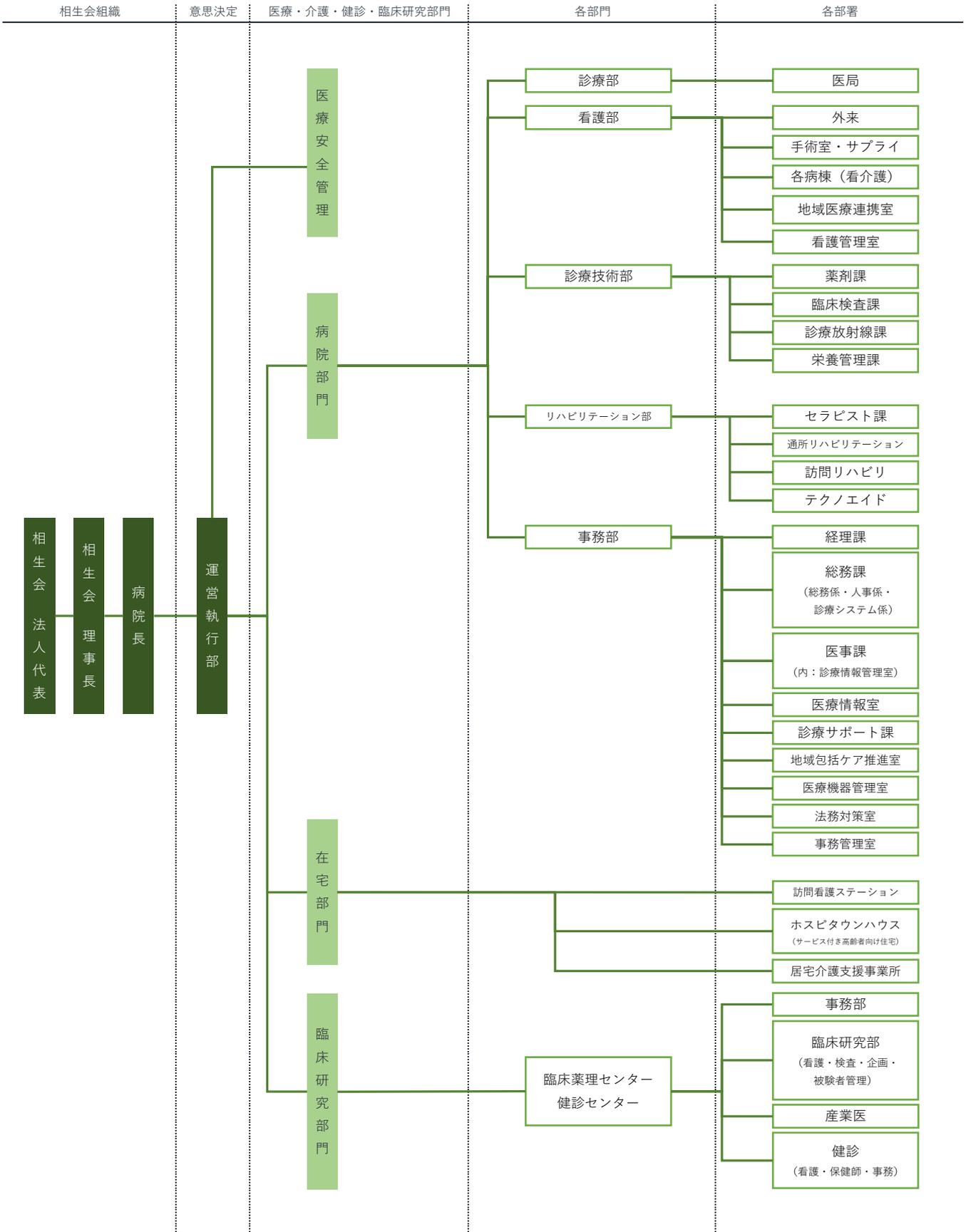
2024年3月31日現在

名称	医療法人相生会 にしくまもと病院		
設立	1988年1月18日		
開設者	入江 伸		
管理者	山口 浩司		
所在地	〒861-4157 熊本市南区富合町古閑1012		
電話	096-358-1118		
FAX	096-358-1099		
診療科目	整形外科・内科・糖尿病/代謝内科・脳神経内科・脳神経外科・消化器内科 呼吸器内科・外科・麻酔科・皮膚科・循環器内科・リハビリテーション科		
病床数	全146床		
	3階病棟（回復期リハビリテーション病棟）		36床
	4階病棟（地域包括ケア病棟）		38床
	5階病棟（一般病棟）		38床
	6階病棟（地域包括ケア病棟）		34床
検査機器	X線診断装置・X線透視診断装置・全身用ヘリカルCTスキャナー(80列)・MRI・骨密度測定装置・関節鏡ファイバースコープ・内視鏡ファイバースコープ(上部・下部)・心電計・超音波診断装置(表在・心・腹)・肺機能検査装置・生化学自動分析装置・血液自動分析装置・全自動血液凝固測定装置・自動グリコヘモグロビン分析計・血液ガス分析装置・血圧脈派検査装置・尿自動分析装置・残尿測定器(ブラダースキャン)・24時間自動血圧測定器・ホルター心電計・筋電計・眼底カメラ・麻酔器・AED・除細動器・人工呼吸器		
関連施設	通所リハビリテーションれんげ草・訪問介護ステーションきんもくせい 訪問リハビリテーション・指定居宅介護支援事業所 (特定施設) サービス付き高齢者向け住宅ホスピタウンハウス 臨床薬理センター・関節外科センター・健診センター		
認定施設	公益財団法人 日本医療機能評価機構 認定施設 3rdG : Ver.3.0 公益社団法人 日本リハビリテーション医学会研修施設 公益社団法人 日本整形外科学会専門医研修施設 一般社団法人 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設 熊本大学医学部医学科 臨床教育学外協力施設		
職員数 (関連施設含む)	医師 : 18 薬剤師 : 8 放射線技師 : 5 臨床検査技師 : 20 管理栄養士 : 4 社会福祉士 : 4	正看護師 : 123 准看護師 : 14 介護福祉士 : 30 介護職員 : 37 臨床工学技士 : 1 義肢装具士 : 1	理学療法士 : 35 作業療法士 : 22 言語聴覚士 : 6 ケアマネージャー : 7 DA/PHN : 4 事務系職員 : 80 (人)

組織図



2024年3月31日現在





基本診療料
一般病棟入院基本料(急性期一般入院料4)
救急医療管理加算
診療録管理体制加算2
医師事務作業補助体制加算1
25対1急性期看護補助体制加算（看護補助者5割以上）
夜間50対1急性期看護補助体制加算
夜間看護体制加算
看護補助体制充実加算
療養環境加算
療養病棟療養環境加算1
機能強化加算
医療安全対策加算2
医療安全対策地域連携加算2
感染対策向上加算2
連携強化加算
サーベイランス加算
患者サポート体制充実加算
後発医薬品使用体制加算 2
データ提出加算2・データ提出加算4 口
提出データ評価加算
入退院支援加算1
地域連携診療計画加算
入院時支援加算
総合機能評価加算
認知症ケア加算3
せん妄ハイリスク患者ケア加算
回復期リハビリテーション病棟入院料1
体制強化加算1
地域包括ケア病棟入院料1
看護職員配置加算
看護補助者配置加算
看護補助体制充実加算
看護職員処遇改善評価料35

特掲診療料
がん性疼痛緩和指導管理料
二次性骨折予防継続管理料2
二次性骨折予防継続管理料3
がん治療連携指導料
薬剤管理指導料
地域連携診療計画加算
医療機器安全管理料1
在宅療養支援病院1（強化単独型）
在宅時・施設入居時等医学総合管理料
在宅患者訪問看護・指導料および同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
検体検査管理加算(Ⅰ)
検体検査管理加算(Ⅱ)
神経学的検査
CT・MRI撮影
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
がん患者リハビリテーション料
手術の通則の5及び6に掲げる手術
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
胃瘻造設術
輸血管理料Ⅱ
輸血適正使用加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
麻酔管理料Ⅰ
入院時食事療養/生活療養(Ⅰ)
酸素の購入価格に関する届出



平成31年2月1日に病院機能評価（3rdG：Ver2.0）の「一般病院1」「リハビリテーション病院（副）」の認定取得から認定期間である5年が経過したため、令和5年10月13日、14日に更新審査を受審し、認定を更新いたしました。

今回の受審ではバージョンがVer3.0となり、カルテレビューなどの新たな審査項目も追加され、職員一丸となって準備から審査に取り組みました。

今回の受審では、前回ではなかった「S」評価も3領域でいただく事ができ、前回指摘を頂いた課題に対しても改善に取り組んできた内容を評価していただいた半面、新たな課題も指摘して頂きました。

今後も病院理念に則った質の高い医療・ケアが提供できるよう、継続して質改善活動に取り組んでいきたいと思っております。





<p>病院長</p>  <p>ヤマグチ コウジ 山口 浩司</p> <p>整形外科（関節外科）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本整形外科学会専門医 ・運動器リハ医 ・日本リウマチ学会 ・リウマチ専門医 ・日本骨粗鬆症学会認定医 ・日本体育協会公認スポーツドクター ・厚生労働省臨床研修指導医 	<p>副院長・地域医療連携部長</p>  <p>マツモト ジュン 松元 淳</p> <p>脳神経外科・ リハビリテーション科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本脳神経外科学会認定医 ・日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 ・日本リハビリテーション医学会専門医/指導医 	<p>副院長・診療部長</p>  <p>ウラモト ヒデシ 浦本 秀志</p> <p>呼吸器内科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所属学会 ・日本内科学会 ・日本呼吸器学会 ・日本肺癌学会 ・日本呼吸器内視鏡学会 ・日本緩和医療学会
<p>院長補佐</p>  <p>ナカシマ シンスケ 中島 伸一</p> <p>整形外科（上肢関節）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本整形外科学会専門医 ・日本専門医機構整形外科専門医 ・日本リハビリテーション医学会認定臨床医 ・日本医師会認定産業医 ・厚生労働省臨床研修指導医 	<p>名誉病院長</p>  <p>ハヤシ シゲル 林 茂</p> <p>整形外科（膝関節鏡）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本整形外科学会専門医 ・スポーツ医、運動器リハ医 ・日本リハビリテーション学会臨床認定医 ・日本リウマチ学会登録医 ・日本医師会産業医 	<p>整形外科部長</p>  <p>イノウエ アツシ 井上 篤</p> <p>整形外科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本整形外科学会専門医 ・日本体育協会スポーツドクター
<p>関節外科センター長</p>  <p>オカモト ノブヒサ 岡元 信和</p> <p>整形外科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整形外科専門医 ・整形外科指導医 	<p>外科部長</p>  <p>マスダ ヨシヒロ 増田 吉弘</p> <p>外科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本外科学会、専門医 ・消化器内視鏡学会、専門医 ・消化器外科学会、認定医 ・臨床外科学会 ・日本医師会産業医 	<p>麻酔科部長</p>  <p>オノダ マサヒロ 小野田 昌弘</p> <p>麻酔科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・麻酔科標榜医 ・日本麻酔科学会専門医 ・日本専門医機構専門医 ・日本麻酔科学会指導医
<p>脳神経内科部長</p>  <p>ムラハシ シュウエイ 村端 秀映</p> <p>脳神経内科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会認定医 ・神経内科専門医 	<p>糖尿病・代謝内科医師</p>  <p>シノハラ モリツグ 篠原 守継</p> <p>糖尿病・代謝内科、 内科全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本糖尿病学会専門医/研修指導医 ・日本内科学会総合内科専門医 ・日本医師会産業医 	<p>糖尿病・代謝内科医師</p>  <p>タカキ ユウキ 高木 優樹</p> <p>糖尿病・代謝内科、 内科全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本糖尿病学会/専門医 ・日本内科学会/認定内科医
<p>皮膚科医師</p>  <p>ヤマシタ ナオコ 山下 直子</p> <p>皮膚科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本皮膚科学会専門医 	<p>訪問診療医師</p>  <p>トクダ カズサ 徳田 一紗</p> <p>内科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会 総合内科専門医 ・プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医 ・日本医師会 認定産業医 	<p>訪問診療医師</p>  <p>イマムラ リエ 今村 理恵</p> <p>内科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定内科医 ・総合内科専門医 ・血液専門医 ・緩和医療認定医
<p>臨床薬理センター副センター長</p>  <p>ヨノウ マコト 米納 誠</p> <p>泌尿器科・臨床薬理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本泌尿器科学会専門医 ・日本臨床薬理学会認定医 	<p>臨床薬理センター医師</p>  <p>タナカ タカノリ 田中 孝典</p> <p>臨床薬理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本臨床薬理学会指導医/専門医 	<p>健診センター長</p>  <p>ヤマグチ ツトム 山口 勉</p> <p>消化器内科・内科一般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会総合内科専門医 ・日本消化器内視鏡学会指導専門医 ・日本消化器病学会専門医 ・日本感染症学会インフェクションコントロールドクター



【講演・学会発表実績】

<時系列順>

演者（職種）	講演・学会名等	タイトル	日時	場所
林 茂 (医師)	人生会議セミナー	熊本生と死を考える会	2023/4/29	ウェルパル熊本
林 茂 (医師)	人生会議セミナー	いきいき碓江サロン	2023/5/9	碓江公民館
橋本大輔 (看護師)	施設の垣根を越えた手術室運営	手術室看護師意見交換会	2023/6/24	市民会館シアーズホーム 夢ホール
林 茂 (医師)	人生会議セミナー	熊本市富合商工会	2023/6/26	富合地域コミュニティー センター
林 茂 (医師)	人生会議セミナー	富合校区健康まちづくり推進員会	2023/6/27	アスパル富合研修室
石本 由 (作業療法士)	九州作業療法学会2023	回復期リハビリテーション病棟における 脳卒中うつ患者に対して、意味ある作業 への介入を行った事例	2023/7/8~9	かごしま県民交流 センター
林 茂 (医師)	佳く生きて逝く為の人生会議	小国郷住民フォーラム2023： Z10名、UT60名	2023/7/15	JA阿蘇小国郷ホール
林 茂 (医師)	人生会議セミナー	第1回富合・城南多職種連携ネットワーク会議	2023/7/20	アスパル富合研修室
林 茂 (医師)	人生会議について	にしくまもと病院緩和ケア委員会	2023/7/26	にしくまもと病院会議室
西山 彰浩 (作業療法士)	第1回臨床実習指導者講習会	臨床実習指導方法論など	2023/7/29~30	WEB開催
林 茂 (医師)	人生会議	熊本農業高校2年生インターンシップ	2023/8/2	にしくまもと病院
林 茂 (医師)	人生会議	莎崎自治会「人生会議」セミナー	2023/8/5	莎崎公民館
山崎 早苗 (事務)	第17回病院事務管理研究会	院長秘書業務における苦労と課題	2023/8/19	熊本市医師会館
山崎 幸成 (事務)	第17回病院事務管理研究会	リクルートの成功例・失敗例	2023/8/19	熊本市医師会館
林 茂 (医師)	人生会議セミナー	南区障がい福祉ネットワーク連絡会	2023/8/21	南区役所会議室
林 茂 (医師)	人生会議セミナー	小林医療福祉グループ・祥麟館職員研修	2023/8/29	祥麟館
山口 浩司 (医師)	熊本二次骨折予防連携研究会 講演会	二次性骨折予防継続管理料についての現状と 問題点～回復期病院の立場から～	2023/8/30	ホテルメルパルク熊本
魚瀬 麻帆 (臨床検査技師)	他職種で考える爪白癬診療	爪白癬診断のポイント	2023/9/12	WEB
林 茂 (医師)	人生会議を始めよう	NPO法人老いと病の文化研究所われもこう	2023/9/13	暮らしの保健室まる
林 茂 (医師)	人生会議セミナー	廻江サロン	2023/9/20	廻江公民館
林 茂 (医師)	人生会議セミナー	城南老人福祉センター・イキイキ健康教室	2023/9/27	城南老人福祉センター

【講演・学会発表実績】

<時系列順>

演者（職種）	講演・学会名等	タイトル	日時	場所
林 茂 (医師)	人生会議セミナー	城南校区自治協議会	2023/9/29	南部公民館
林 茂 (医師)	人生会議セミナー	社会福祉法人和創会 ゆうとぴあ職員研修	2023/10/18	ゆうとぴあ
西山 彰浩 (作業療法士)	リハビリテーション・ケア合同 研究大会 広島2023	回復期リハビリテーション病棟における チーム医療に対する意識調査	2023/10/26~ 27	広島国際会議場
林 茂 (医師)	人生会議セミナー	幸田地区自治会連合会 幸田地区	2023/10/28	幸田公民館
波多埜 克宜 (理学療法士)	令和5年度 市民講座・医専連シ ンポジウム	「人生100年時代」に向けて ～平均寿命・ 健康寿命・超高齢化社会を考える～ シンポ ジストとして参加	2023/11/4	熊本市医師会館
林 茂 (医師)	人生会議セミナー	学料シニア会「人生会議」セミナー	2023/11/7	学料公民館
林 茂 (医師)	良く生きて逝く為の人生会議	八代地域包括ケア推進住民講演会	2023/11/18	八代桜十字市民ホール
岡本 彬 (理学療法士)	九州理学療法士学術大会2023 in熊本	コロナ禍における入院早期から家屋環境把握 を目的とした取り組み	2023/11/25~ 26	市民会館シアーズホーム 夢ホール
林 茂 (医師)	人生会議のすすめ	第3回南区人生会議の日	2023/11/25	火の君文化ホール
野田 時生 (作業療法士)	第19回 熊本作業療法学会	手関節・手指に局限した運動麻痺を呈した 患者に対し電気刺激療法と手関節固定装具 を用い、改善に至った1例	2023/11/26	八千代座
犬童 芙美 (薬剤師)	熊本南部骨粗鬆症連携セミナー	OLSチームと地域連携への取り組み	2023/12/7	にしくまもと病院 南館 3F会議室
山口 浩司 (医師)	熊本南部骨粗鬆症連携セミナー	2次性骨折予防継続管理料を介した骨粗鬆症 連携	2023/12/7	にしくまもと病院 南館 3F会議室
橋本大輔 (看護師)	施設の垣根を越えた手術室運営	悩み・疑問・取組を語ろう	2023/12/9	熊本城ホール
松田 恵美 (臨床検査技師)	糖尿病教室	尿検査	2023/12/9	にしくまもと病院 多目的 室
西山 彰浩 (作業療法士)	第2回臨床実習指導者講習会	臨床実習指導方法論など	2023/12/9~10	WEB開催
林 茂 (医師)	人生会議セミナー	第2回城南・富合多職種連携ネットワーク 会議	2023/12/22	火の君文化ホール
林 茂 (医師)	人生会議セミナー	医療法人城南ヘルスケアグループ	2024/2/15	くまもと南部広域病院研 修ホール
高島 諒 (医師)	第55回日本リハビリテーション 医学会 九州地方会	前縦靭帯骨化症が嚥下機能に影響を与えた 2症例	2024/2/18	鹿児島大学医学部 鶴陵会館
林 茂 (医師)	人生会議セミナー	医療法人井上会ひかりテラス病院	2024/2/26	光乃里地域交流スペース
林 茂 (医師)	人生会議セミナー	宇城市地域包括支援センター	2024/3/5	ウイング松橋視聴覚室
岡本 彬 (理学療法士)	回復期リハビリテーション研究 大会in熊本	脳卒中片麻痺患者に対する長下肢装具作製に おける当院の課題と今後の展望	2024/3/8~9	熊本城ホール
藤山 麻衣 (臨床検査技師)	にしくまカフェ	COVID-19流行下での褥瘡	2024/3/14	にしくまもと病院 れんげ 草
林 茂 (医師)	人生会議セミナー	光福寺 富合町	2024/3/29	光福寺本堂



イベントカレンダー

2023年 4月

新入職員オリエンテーション



面会制限緩和

面会制限緩和のお知らせ

4月18日より面会制限を緩和いたします。お見舞いはお断りします。
 面会時間 14:00～16:00 15分以内でお願いします。
 予約制 電話のみ予約を受け付けます。(予約開始日4月17日)
 ※専用ダイヤル (096-273-7183)
 病院代表の電話では受け付けませんので、お間違いないようお願いください。
 予約の際は、入院されている方のお名前と病棟、患者様との続柄をお知らせ下さい。
 予約受付時間：月～金まで 10時～17時
 患者様一人当たり 週1回 2名まで(ご家族、身元保証人の方限定) 1日3組限定
 面会場所：デイルーム 個室に入院中の方は個室で面会可能

2023年 10月

ホスピタウンKIDS運動会



病院機能評価受審



2023年 5月

ホスピタウンハウス夏祭り



2023年 11月

グラウンドゴルフ大会



2023年 6月

新入職員歓迎会開催



2023年 12月

忘年会開催



2023年 12月

ホスピタウンKIDSクリスマス会



中庭キッチンカー招聘 (月1回)



通所リハビリれんげ草餅つき大会



2024年 2月

院内研究・改善活動報告会開催



2024年 3月

第53回糖尿病教室 開催

第53回 糖尿病教室
 今回は食事体験 お気軽にご参加ください
 日時: 3月9日(土) 12:00~受付
 12:30~開始
 場所: 第2薬理センター
 申込(通所リハれんげ草入口前)
必須
 糖尿病食体験
 患者さん・ご家族
 興味のある方どなたでも
600円
 ※写真はイメージです
 事前申込制 締切日2/29
 (以降は注文の都合上、返金が不可となります)
 問合せ
 診療サポート課 高木まで
 電話 (096) 358-1118
 にしくまもと病院

医療連携室主催第37回にしくまカフェ

医療従事者の皆様と学ぶ
第37回 にしくまカフェ
 マットレスや栄養関連・褥瘡材、VAC療法の
 実技や展示も行います。近隣にお勤めする
 医療従事者様のご参加をお待ちしております!
 日時: 2024年3月14日(木)
 18:00~19:00 ※受付17:30~
 テーマ じょくそう
**本音で語る褥瘡対策2024
 実践チーム医療**
 講師: 皮膚科 山下 直子 医師 & 褥瘡対策チーム
 場所: にしくまもと病院 通所リハビリれんげ草
 参加申込み(無料)
 医療機関・施設名、参加者名を
 当院 地域連携課までご連絡下さい
 TEL / 096-277-1701
 FAX / 096-277-1721
 〒861-4157 熊本県宇都宮町古閑1012
にしくまもと病院
 地域医療連携室 宮内・西本



外来スケジュール



2024年3月31日現在

診療科	専門	月		火		水		木		金		土
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前
整形外科	一般	山口浩司	山口浩司	山口浩司				唐杉	中島 (完全予約)	前田	高橋	担当医
		中島	中島	浦上			手術					
		井上			井上	井上			井上			
	ひざ専門							林				
	関節 スポーツ										山口浩司	
	骨粗鬆症								山口浩司 (第3木曜)			
内科	一般	篠原	本田	篠原		篠原		本田			本田	担当医 (第5週目 休診)
					村端	村端			村端	村端		
		増田						増田				
		浦本	徳田	浦本	徳田			徳田		浦本		
糖尿病/代謝内科		篠原		篠原		篠原						
脳神経内科				村端	村端			村端	村端			
循環器内科			梅田								担当医	
呼吸器内科		浦本		浦本						浦本		
皮膚科 ※完全予約				山下	山下			山下				
麻酔科		小野田			※手術	※手術	※手術			※手術	小野田 (術前外来)	

看護部 概要



看護部長 村本 多江子

◆看護部職員数 2023年4月1日現在

看護師111名、保健師2名、准看護師14名、看護補助者53名（介護福祉士28名含）、看護事務4名、歯科衛生士2名 ※産休・育休等休職者を除く。

◆看護部管理者

看護部長1名、副部長2名、師長6名、係長1名、主任9名、副主任3名、介護主任1名、介護副主任5名

◆認定他資格看護師

がん性疼痛看護認定看護師1名、認定看護管理者1名、セカンドレベル修了者2名、ファーストレベル修了者3名、医療メディエーター4名、医療安全管理者5名、骨粗しょう症マネジャー3名、NST1名、糖尿病療養指導士3名、ケママネジャー3名

【2023年度看護部取り組みと実績】

1. 病床管理

1日平均入院患者数126.6人、病床利用率85.3%。前年度より改善したが、コロナ禍前の状況には未達成である。急性期病院からの転院を円滑に行うために、セラピストと連携部長も含めた病床調整を導入した。また、2022年10月救急告示病院となり、救急車の受け入れ目標を年間200台と設定し、日中の急患依頼を断らないよう応援体制を強化した結果280台/年を受け入れ、入院は116件であった。

2. 健全経営への貢献

一般病棟と地域包括ケア病棟の看護補助者配置を見直し、2023年5月より25対1急性期看護補助体制加算、夜間50対1急性期看護補助体制加算、看護補助体制充実加算等の算定を開始した。また、個室使用説明を丁寧に行うことで室料差額の増収につながるなど、経営貢献ができた。6月には九州厚生局の適時調査を受けたが、大きな問題はなかった。2023年12月より機能強化型在宅療養支援病院を届出し、看護師1名を配置し訪問診療部4月開設が達成できた。

3. 看護の専門性担保の体制構築

人材育成では、新たに看護協会看護管理者認定セカンドレベル1名、ファーストレベル1名修了。災害支援ナース2名、回復期リハ看護認定コース1名、医療安全管理者1名、医療メディエーター3名の資格取得ができた。更に、みらい病院への施設見学4名、済生会熊本病院への連携研修5名、相生会看護管理者研修5名が参加し、視野を広げる機会を得た。また、岡山竜操病院からの施設見学を受け入れ人事交流もできた。医療の質改善では、10月には病院機能評価を受審し、医療安全と感染管理体制の相互評価を受けた。一方、リクルート活動では、インターンシップ実施、高校生の職場体験、看護介護学生養成校訪問、ハローワーク説明会、熊日就職ガイダンスへ参加した。入職後面談を行うと共に看護職員処遇改善評価料や介護職員処遇改善加算が処遇改善につながり、2023年度離職率は7%（前年16%）、補助者9%（前年17%）と改善できた。

4. 働き方の見直し

看護必要度評価方法をⅡへ見直し、評価に係る業務量を削減した。クランクへの入院オリエンテーションや入院セット説明管理、同意書のスキャン業務を委譲した。また、師長不在病棟には確実に代行管理者を配置し、欠員病棟や業務量に応じ、手術室看護師や補助者等による病棟や薬理採血、健診内視鏡、など応援体制を日常化し、お互い助け合う文化の醸成を図った。2月に病棟管理者異動を行い、組織体制の再構築に取り組んだ。5階病棟補助者夜勤配置により看護師の夜勤残業時間が約35%減少した。

【今後の課題】

今後は、入退院支援及び看護管理者や専門資格取得などの人材育成、安全で効率的な病床管理、診療報酬改定への対応による健全経営への貢献、看護の専門性と質改善活動の実践、働き方の見直しを継続課題として取り組む。

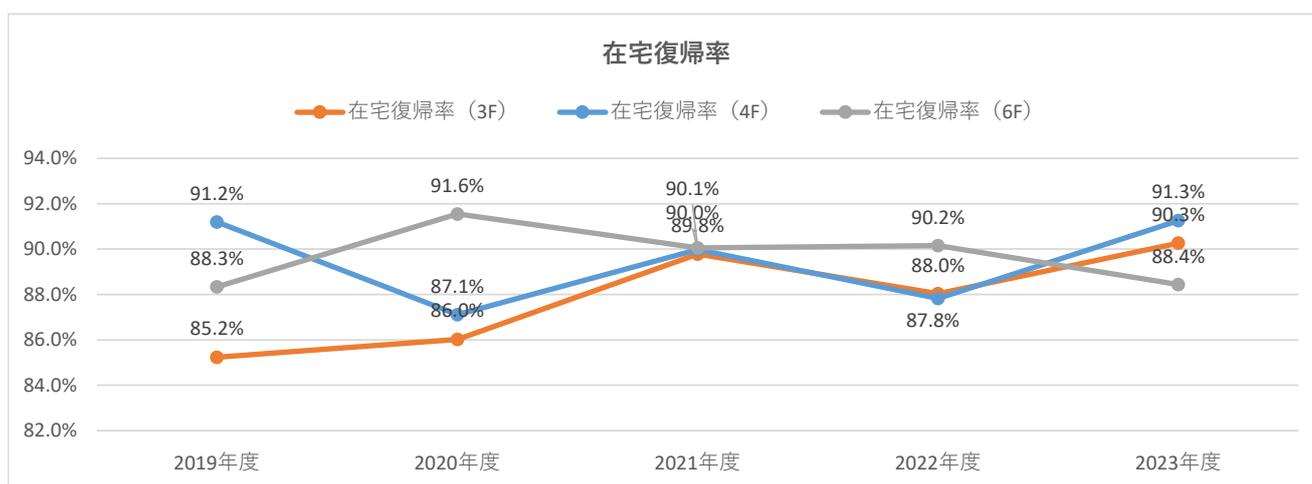
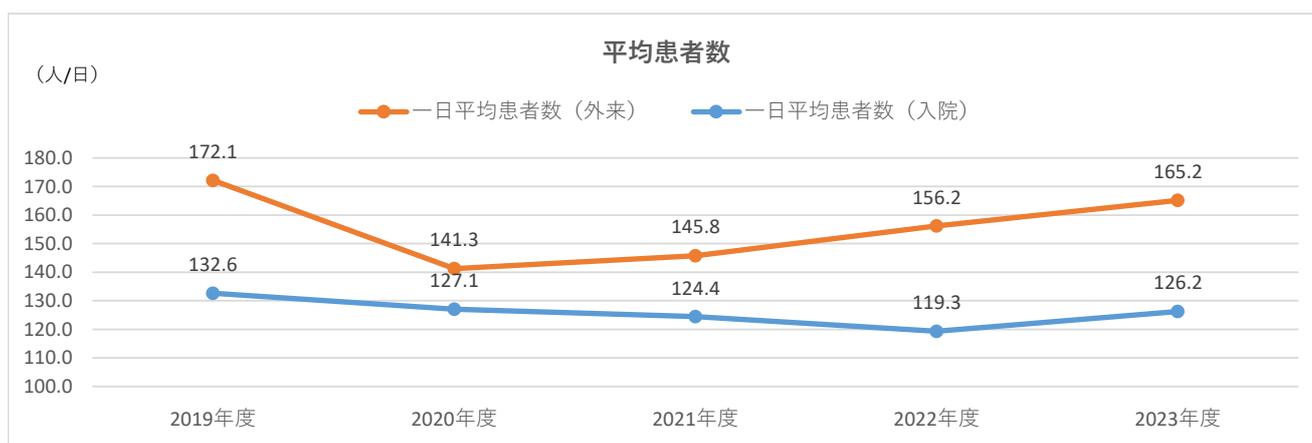
診療統計報告

(2021年度～2023年度実績)

病院指標	-----	▪	16	臨床検査課	-----	▪	30
市町村別患者割合・救急車受入	-----	▪	17	栄養管理課	-----	▪	32
外来	-----	▪	18	地域医療連携室	-----	▪	33
3階病棟	-----	▪	20	訪問診療	-----	▪	34
4階病棟	-----	▪	21	居宅介護支援事業所	-----	▪	35
5階病棟	-----	▪	22	通所リハビリテーション	-----	▪	36
6階病棟	-----	▪	23	訪問看護ステーション	-----	▪	37
手術室・サプライ	-----	▪	24	訪問リハビリテーション	-----	▪	38
医療機器管理室	-----	▪	25	ホスピタウンハウス	-----	▪	39
セラピスト課・テクノエイドセンター	-----	▪	26	臨床薬理センター	-----	▪	40
薬剤課	-----	▪	28	健診センター	-----	▪	41
放射線課	-----	▪	29	地域包括ケア推進室	-----	▪	42

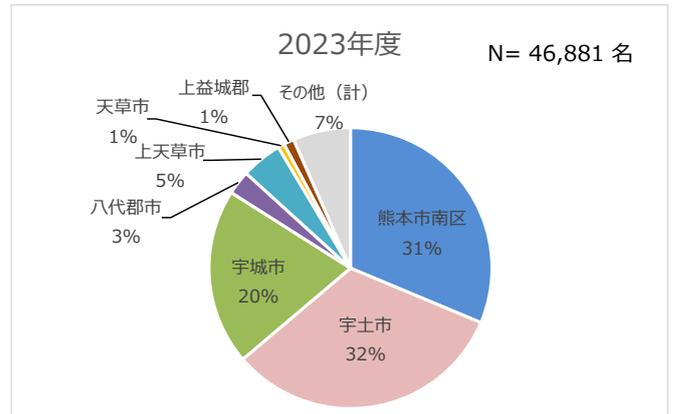
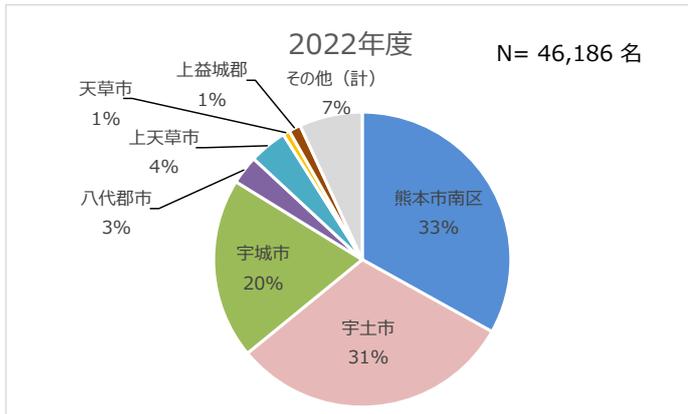
病院指標

項目	備考	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	5年平均
一日平均患者数	外来	名/日	172.1	141.3	145.8	156.2	165.2	156.1
一日平均患者数	入院	名/日	132.6	127.1	124.4	119.3	126.2	125.9
病床利用率	病棟全体	%	90.8%	87.0%	85.2%	81.7%	86.5%	86.3%
平均在院日数	病棟全体	日	46.4	42.2	40.8	36.9	35.0	40.3
在宅復帰率	3F	%	85.2%	86.0%	89.8%	88.0%	90.3%	87.9%
在宅復帰率	4F	%	91.2%	87.1%	90.0%	87.8%	91.3%	89.5%
在宅復帰率	6F	%	88.3%	91.6%	90.1%	90.2%	88.4%	89.7%

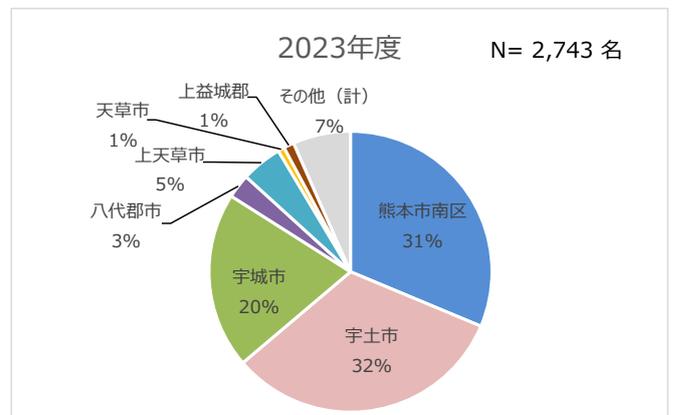
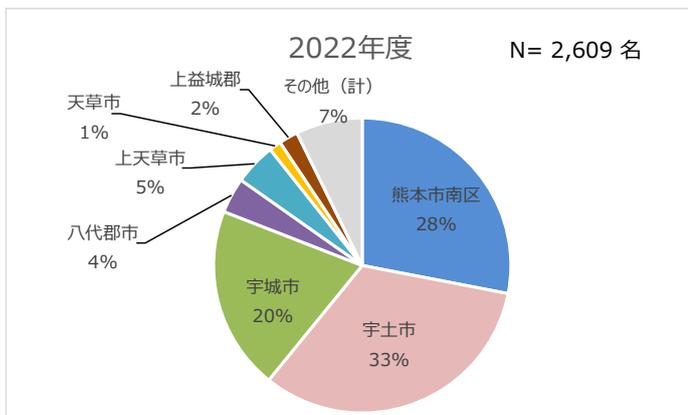


市町村別患者割合（外来/入院）

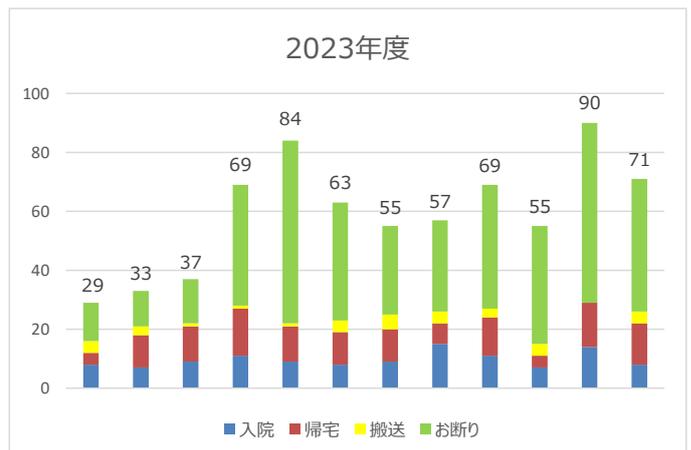
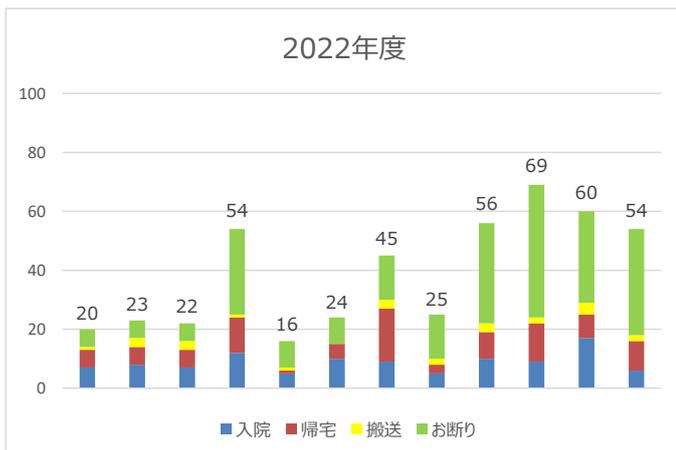
■外来延べ患者割合：市町村別のグラフ化（熊本市南区、宇土市、宇城市、八代郡市、上天草市、天草市、上益城郡）
 ※八代郡市：八代市+八代郡氷川町



■入院実患者割合：市町村別のグラフ化（熊本市南区、宇土市、宇城市、八代郡市、上天草市、天草市、上益城郡）
 ※八代郡市：八代市+八代郡氷川町



救急車受け入れ推移



外来

【職種別スタッフ数】 看護師12名、准看護師2名、パート1名、クーク1名

(i). 総評

今年度は麻酔科診療が一部変更となりスタートした。1日平均患者数は165.1人（前年比+8.9人）であった。

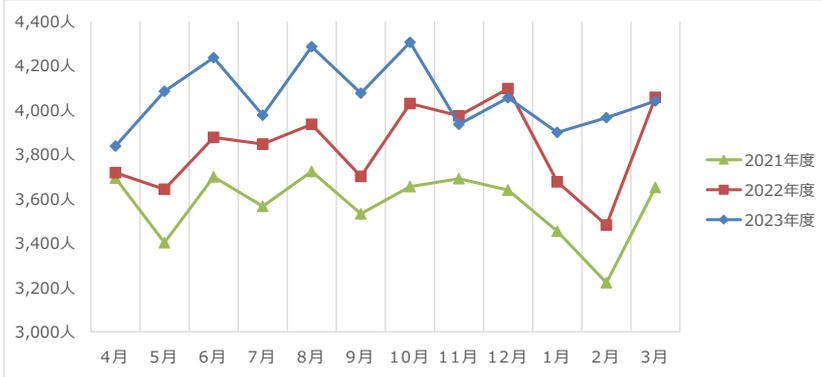
2022年9月に救急告示し、2023年6月に近隣の消防署5箇所へ医師と共に訪問した。その後より救急車の搬入相談件数が増加し、年間720件（前年比+223件）の問い合わせがあり、280件（前年比+53件）受け入れた。全体応需率は38.9%だが、診療時間内での応需率は72.3%に上り、入院率16.1%であった。

発熱患者や多様な疾患及び要介護者の受診、救急車受け入れなどで業務が煩雑ではあるが、外来診療にかかわる多職種で情報交換・共有することで安全な外来診療が提供できるように努めた。

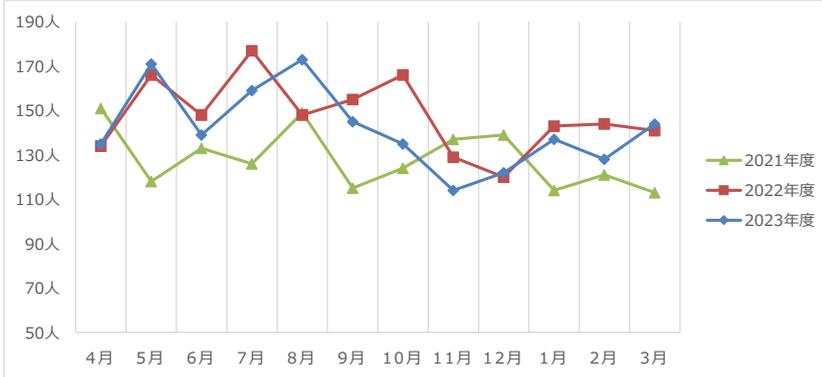
次年度は訪問診療部と強固な連携、救急車の受け入れ拡充、整形手術患者をはじめとした外来受診患者増へ対応していきたい。

(ii). 実績推移

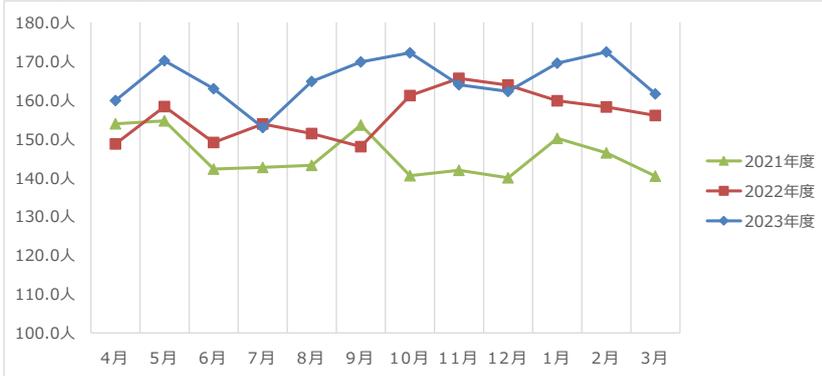
◆ 延べ患者数



◆ 延べ新患者数



◆ 一日平均患者数



(iv)2023年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比				
															2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	
整形外科	延患者数	人	2,027	2,059	2,169	2,023	2,165	2,144	2,225	1,983	2,088	1,962	2,024	2,211	2,090.0	25,080	23,512	21,765	19,432
	新患者数	人	110	143	112	131	121	118	113	82	99	96	100	118	111.9	1,343	1,456	1,395	1,267
内科	延患者数	人	237	415	405	388	412	390	436	391	404	405	393	431	392.3	4,707	3,414	5,063	6,963
	新患者数	人	4	5	6	6	12	6	2	6	7	12	8	5	6.6	79	52	76	70
消化器内科	延患者数	人	21	17	17	16	13	14	11	11	16	14	14	8	14.3	172	105	1,440	1,307
	新患者数	人	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	1	2	67	42
代謝・糖尿病	延患者数	人	337	364	360	369	370	299	356	290	317	312	292	238	325.3	3,904	4,194	4,927	4,806
	新患者数	人	3	0	1	0	1	2	0	2	0	0	1	0	0.8	10	29	53	44
神経内科	延患者数	人	177	192	198	182	251	185	181	182	167	202	164	173	187.8	2,254	2,396	0	24
	新患者数	人	5	5	10	10	17	3	4	6	3	11	8	6	7.3	88	96	0	0
外科	延患者数	人	130	113	148	141	143	144	151	142	104	109	120	115	130.0	1,560	1,738	1,207	897
	新患者数	人	1	1	1	1	1	3	1	2	1	1	0	5	1.5	18	28	52	21
泌尿器科	延患者数	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	810	1,007	878
	新患者数	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	2	18	17
呼吸器内科	延患者数	人	119	120	134	156	147	126	131	152	143	153	132	155	139.0	1,668	922	0	12
	新患者数	人	4	5	2	7	15	5	7	8	6	5	4	5	6.1	73	41	0	0
循環器内科	延患者数	人	80	115	72	92	72	81	102	75	94	89	85	89	87.2	1,046	1,121	1,077	949
	新患者数	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0.2	2	5	15	11
皮膚科	延患者数	人	645	617	667	537	643	601	632	626	627	587	655	502	611.6	7,339	6,432	5,599	5,434
	新患者数	人	5	10	7	4	6	7	6	8	5	10	4	3	6.3	75	40	111	103
麻酔科	延患者数	人	38	47	44	44	39	45	45	55	51	35	40	49	44.3	532	689	512	532
	新患者数	人	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0.4	5	12	7	8
リハビリテーション科	延患者数	人	1	4	1	1	12	4	4	6	7	7	10	12	5.8	69	2	0	128
	新患者数	人	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0.5	6	0	0	0
脳神経外科	延患者数	人	25	21	21	27	18	43	31	22	37	24	36	57	30.2	362	694	325	295
	新患者数	人	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.2	2	8	7	0
全科	延患者数	人	3,837	4,084	4,236	3,976	4,285	4,076	4,305	3,935	4,055	3,899	3,965	4,040	4,057.8	48,693	46,029	42,922	41,657
	新患者数	人	135	171	139	159	173	145	135	114	122	137	128	144	141.8	1,702	1,771	1,540	1,583
1日平均患者数	人/日		159.9	170.2	162.9	152.9	164.8	169.8	172.2	164.0	162.2	169.5	172.4	161.6	165.2	165.2	156.2	145.8	141.3
外来営業日数	日		24	24	26	26	26	24	25	24	25	23	23	25	24.6	295.0	295.0	295.0	295.0

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	合計	
救急搬送数	対応件数	件	16	21	22	28	22	23	25	26	27	15	29	26	23.3	280
	内入院	件	8	7	9	11	9	8	9	15	11	7	14	8	9.7	116

3階病棟

回復期リハビリテーション病棟 36床

【職種別スタッフ数】 看護師 15名、准看護師 3名、介護福祉士 2名、CW 5名、歯科衛生士 1名、クラーク 2名

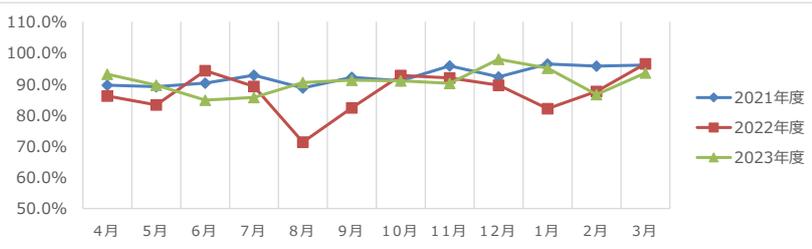
(i).総評

2023年度も継続して回復期リハビリテーション病棟入院料1の施設基準で運営した。本年度実績は、病床利用率90.8%（昨年比+3.6P）、平均在院日数62.0日（昨年比▲7.1日）、在宅復帰率90.3%（昨年比+1.9P）、回復改善率75.2%（昨年比▲1.8P）、日常生活機能評価入棟時10点以上（看護必要度B項目割合）56.3%（昨年比+4.8P）と施設基準はクリアした。しかし、2024年1月後半～2月初め当病棟で新型コロナウイルス感染症クラスターが発生したため、在宅退院の延期やコロナ病棟への転棟もあり、2月は病床利用率86.6%、在宅復帰率81.3%まで低下した。

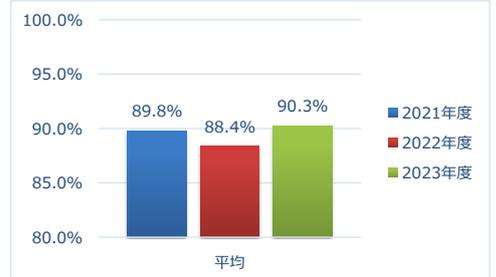
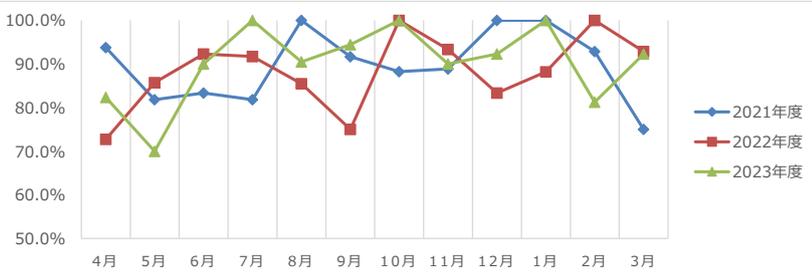
患者・家族の多様化するニーズや生活背景に寄り添い、安全で安心できる入院生活を過ごせるよう援助し、入院時から在宅や両先への支援をしていくことを目標に多職種で支援していきたい。

(ii).実績推移

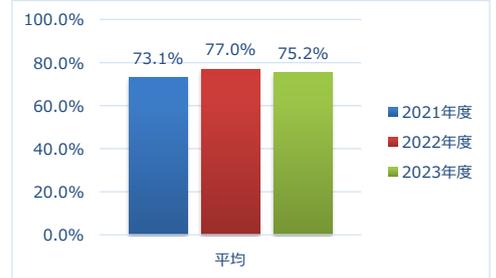
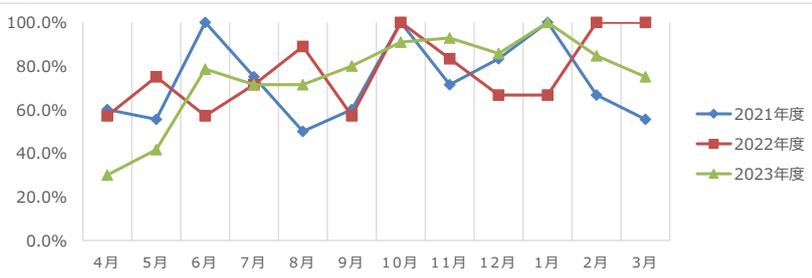
◆ 病床利用率



◆ 在宅復帰率



◆ 回復改善率



(iii).2023年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度平均		
															2023年度	2022年度	2021年度
病床数	床	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36.0	36.0	36.0	36.0
入院延患者数	人	1,006	1,000	916	956	1,010	985	1,016	974	1,093	1,061	904	1,044	997.1	997.1	955.2	1012.8
1日平均患者数	人/日	33.5	32.3	30.5	30.8	32.6	32.8	32.8	32.5	35.3	34.2	31.2	33.7	32.7	32.7	31.4	33.3
病床利用率	%	93.1%	89.6%	84.8%	85.7%	90.5%	91.2%	91.0%	90.2%	97.9%	95.1%	86.6%	93.5%	90.8%	90.8%	87.2%	92.5%
入院数（転入含）	人	20	12	15	20	25	19	20	20	14	7	21	12	17.1	17.1	14.4	15.2
退院数（転出含）	人	21	16	20	13	23	20	19	21	13	12	17	14	17.4	17.4	14.1	15.3
平均在院日数	日	49.1	71.4	52.3	57.9	42.1	50.5	52.1	47.5	81.0	111.7	47.6	80.3	62.0	62.0	69.1	67.9
在宅復帰率	%	82.4%	70.0%	90.0%	100.0%	90.5%	94.4%	100.0%	90.0%	92.3%	100.0%	81.3%	92.3%	90.3%	90.3%	88.4%	89.8%
回復改善率	%	30.0%	41.7%	78.6%	71.4%	71.4%	80.0%	90.9%	92.9%	85.7%	100.0%	84.6%	75.0%	75.2%	75.2%	77.0%	73.1%
重症患者割合	%	83.3%	66.7%	46.7%	45.0%	48.0%	55.6%	65.0%	55.0%	42.9%	71.4%	55.0%	41.7%	56.3%	56.3%	51.5%	44.2%

4階病棟

地域包括ケア病棟 38床

【職種別スタッフ数】 看護師 19名、准看護師 1名、介護福祉士 2名、CW 8名、クレーク 1名

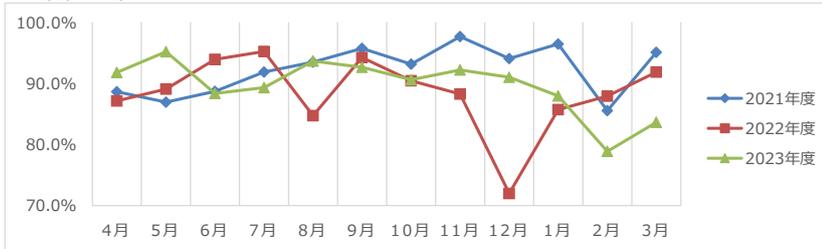
(i).総評

新型コロナウイルス感染症は5月から5類感染症へ移行となったが、依然として感染力は高くたびたび感染者が発生し、そのたびに病床稼働が低下した。多職種で協力し合い、新型コロナウイルス感染症の影響は最小限に抑えることができ、病床利用率は平均89.6%（昨年比+1.2P）。また、手術予定患者の入院を継続して定期的に受け入れることで施設基準をクリアしていくことができた。

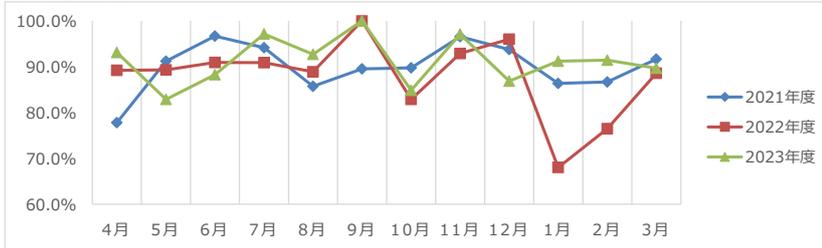
今後、診療報酬改定に伴い入院期間の短縮が求められており、入院時から退院を意識した関わりがより重要となる。退院後の生活療養先決定の困難事例は年々増えてきている。受け持ち看護師を中心に患者・家族の思いを大切に、多職種で協力し支援していきたい。

(ii).実績推移

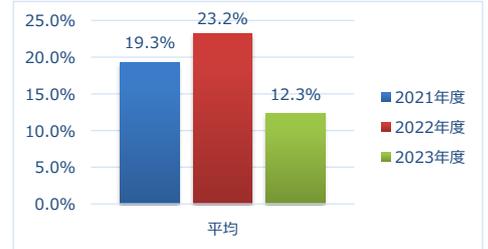
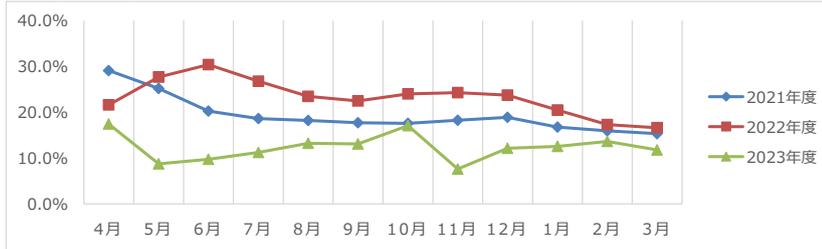
◆ 病床利用率



◆ 在宅復帰率



◆ 看護必要度



(iii).2023年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比		
															2023年度	2022年度	2021年度
病床数	床	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38.0	38.0	38.0	38.0
入棟患者総数	人	1,046	1,121	1,007	1,052	1,103	1,056	1,067	1,051	1,072	1,036	869	985	1,038.8	1,038.8	1,021.1	1,067.1
1日平均患者数	人	34.9	36.2	33.6	33.9	35.6	35.2	34.4	35.0	34.6	33.4	30.0	31.8	34.0	34.0	33.6	35.1
病床利用率	%	91.8%	95.2%	88.3%	89.3%	93.6%	92.6%	90.6%	92.2%	91.0%	87.9%	78.9%	83.6%	89.6%	89.6%	88.4%	92.3%
入院数	人	33	34	33	34	42	37	31	36	37	29	39	24	34.1	34.1	32.1	33.0
退院数	人	31	35	34	35	41	37	34	34	38	34	35	29	34.8	34.8	32.3	32.8
平均在院日数	日	32.7	32.5	30.1	30.5	26.6	28.5	32.9	30.0	28.6	32.9	23.5	37.2	30.5	30.5	32.4	33.0
在宅復帰率	%	93.1%	82.9%	88.2%	97.1%	92.7%	100.0%	84.8%	97.1%	86.8%	91.2%	91.4%	89.7%	91.3%	91.3%	87.8%	90.0%
看護必要度 (単月)	%	17.4%	8.7%	9.7%	11.2%	13.2%	13.1%	17.1%	7.6%	12.1%	12.5%	13.6%	11.8%	12.3%	12.3%	23.2%	19.3%
看護必要度 (3ヶ月平均)	%	14.1%	13.0%	11.8%	9.9%	11.4%	12.5%	14.5%	12.8%	12.5%	10.9%	12.7%	12.6%	12.4%	12.4%	23.1%	20.4%

5階病棟

急性期一般病棟 38床

【職種別スタッフ数】 看護師 20名、准看護師 2名、介護福祉士 5名、CW 4名、クレーク 1名

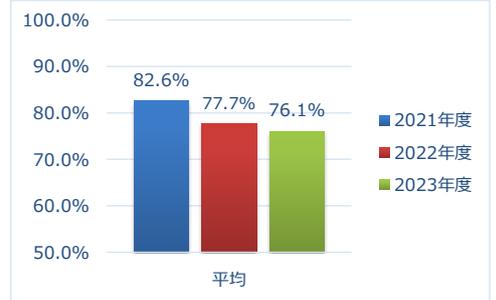
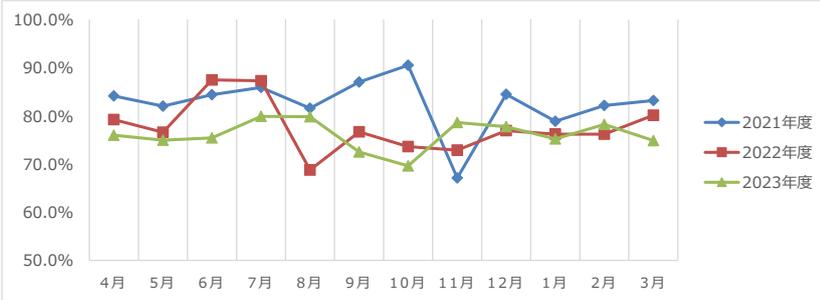
(i) 総評

本年度は、急性期一般入院基本料4、病床数38床で運用した。病床利用率76.1%（昨年比▲1.6P）、3ヶ月平均在院日数14.9日（昨年比▲3.8日）看護必要度割合3ヶ月平均26.7%（昨年比▲1.0P）で施設基準実績もクリアしている。

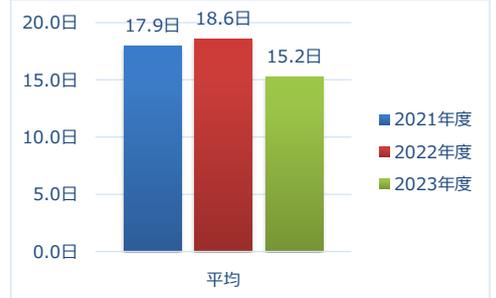
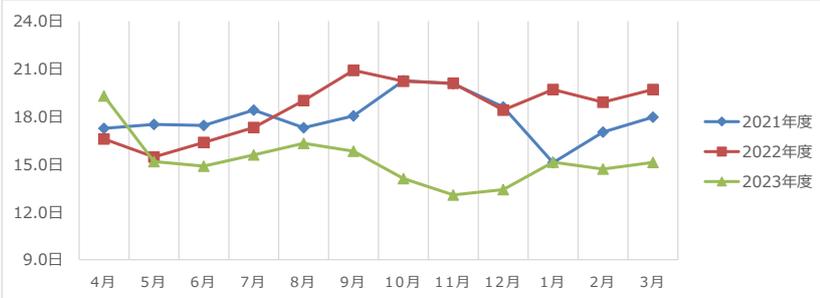
臨時入院の対応など日々のベッドコントロールは苦慮したが、他部署と協力して調整、対応した。昨年同様、老々介護、独居による介護者不在、経済的問題など退院困難事例が多数あり、入退院数の安定確保が課題である。本年4月より看護補助者を含めた3人夜勤体制にすることで、25対1急性期看護補助体制加算を算定し、経営にも貢献しつつ、夜勤の残業時間削減やリスク回避につながった。今後は看護師3人夜勤体制を敷き、増加する手術や救急患者への対応強化を図りたい。

(ii) 実績推移

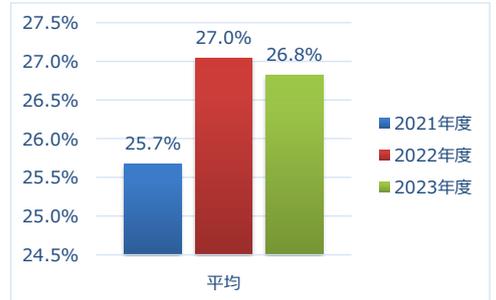
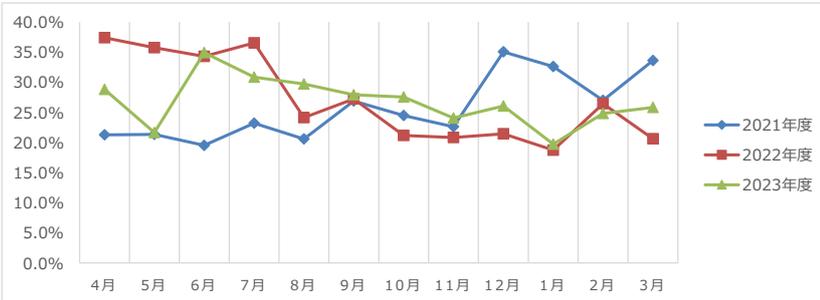
◆ 病床利用率



◆ 3ヶ月平均在院日数



◆ 看護必要度 (単月)



(iii) 2023年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比		
															2023年度	2022年度	2021年度
入棟患者総数	人	866	883	860	941	940	826	820	896	916	886	862	882	881.5	881.5	897.5	955.1
1日平均患者数	人/日	28.9	28.5	28.7	30.4	30.3	27.5	26.5	29.9	29.5	28.6	29.7	28.5	28.9	28.9	29.5	31.4
病床利用率	%	76.0%	75.0%	75.4%	79.9%	79.8%	72.5%	69.6%	78.6%	77.8%	75.2%	78.2%	74.9%	76.1%	76.1%	77.7%	82.6%
入院数	人	56	60	61	53	54	57	70	65	62	49	62	59	59.0	59.0	57.3	58.2
退院数	人	58	57	59	55	55	69	61	63	65	43	68	62	59.6	59.6	57.3	57.9
平均在院日数	日	15.2	15.1	14.3	17.5	17.4	13.0	12.4	13.9	14.0	18.5	12.7	15.1	14.9	14.9	18.7	18.3
3ヶ月平均在院日数	日	19.3	15.2	14.9	15.6	16.3	15.8	14.1	13.1	13.4	15.1	14.7	15.1	15.2	15.2	18.6	17.9
看護必要度 (単月)	%	28.8%	21.6%	34.9%	30.8%	29.7%	27.9%	27.5%	24.0%	26.1%	19.7%	24.8%	25.8%	26.8%	26.8%	27.0%	25.7%
看護必要度 (3か月)	%	26.4%	24.1%	28.4%	29.1%	31.8%	29.6%	28.5%	26.4%	25.8%	23.3%	23.6%	23.4%	26.7%	26.7%	27.7%	24.6%

※2024年4月看護必要度Ⅱへ変更

6階病棟

地域包括ケア病棟 34床

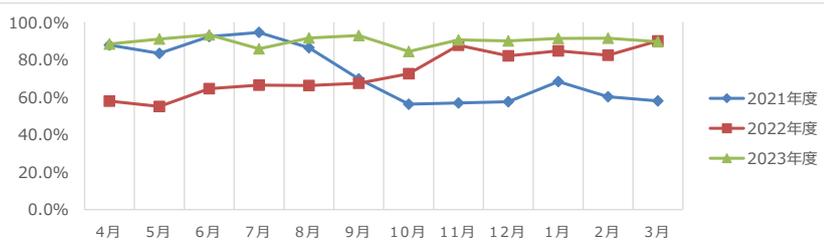
【職種別スタッフ数】 看護師18名、介護職6名、介護サポーター1名、病棟クレーク1名

(i).総評

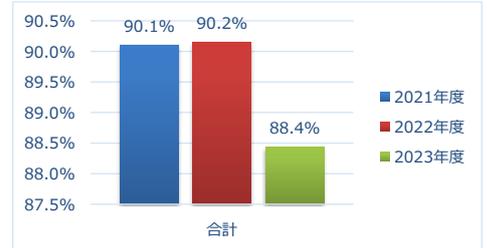
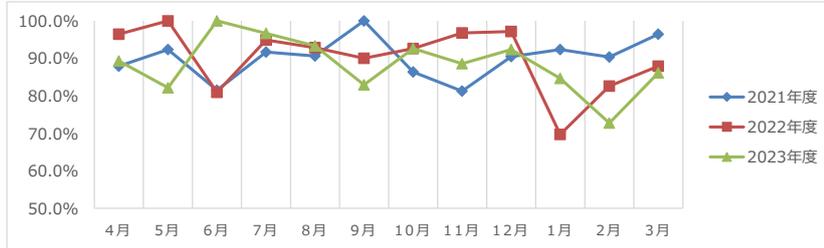
地域包括ケア病棟とコロナ病床4床を確保し、併せて34床で運営。本年度実績は、病床利用率89.0%（前年比+15.9P）、在宅復帰率 89.1%（前年比+1.1P）、自宅等からの入院 29.5%（前年比▲9.25P）、緊急入院受入:平均 6人/月（前年比▲1人）で施設基準はクリアした。令和5年5月よりコロナ感染症が5類へ移行し、施設ごとの感染症対応が必須となった。5類移行前の前年度は65名のコロナ感染症患者の受入れを行い、今年度は30名と減少傾向ではあるが感染病床での受入れを継続して行った。病棟機能として、日々多職種協力し退院支援に取り組んでいるが、退院困難症例が増加傾向にある。その為、入院早期にカンファレンスを行い、多職種協働・チーム力強化に尽力し、患者様・ご家族の意向を確認しながら退院に向けた治療・ケア・リハビリを提供した。今後も、患者様ご家族との信頼関係構築・ニーズの把握に努め、より良い医療・介護・リハビリの提供が行える病棟にしていきたい。

(ii).実績推移

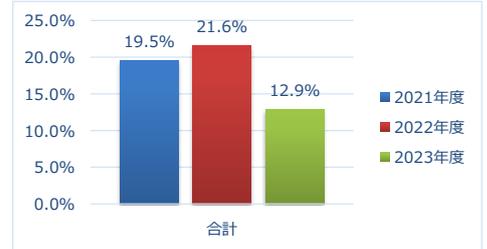
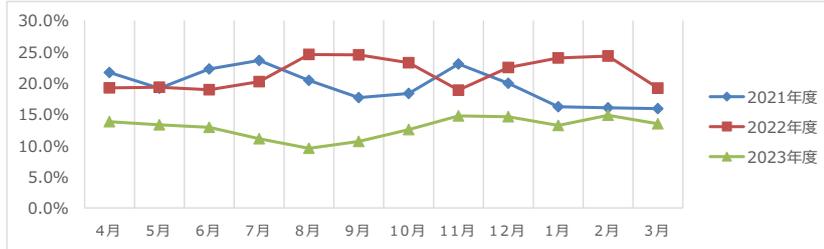
◆ 病床利用率



◆ 在宅復帰率



◆ 看護必要度



(iii).2023年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比		
															2023年度	2022年度	2021年度
病床数	床	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34.0	34.0	29.0	28.2
入棟患者総数	人	901	959	951	904	965	947	889	924	948	963	901	944	933.0	933.0	755.1	751.3
1日平均患者数	人/日	30.0	30.9	31.7	29.2	31.1	31.6	28.7	30.8	30.6	31.1	31.1	30.5	30.6	30.6	24.8	24.7
病床利用率	%	88.3%	91.0%	93.2%	85.8%	91.6%	92.8%	84.3%	90.6%	89.9%	91.4%	91.4%	89.6%	90.0%	90.0%	73.0%	72.6%
入院数	人	30	29	24	24	37	37	30	33	41	22	36	33	31.3	31.3	30.2	27.0
退院数	人	29	30	22	31	31	38	28	35	39	26	33	36	31.5	31.5	29.0	28.2
平均在院日数	日	30.6	32.5	41.3	32.9	28.4	25.3	30.7	27.2	23.7	40.1	26.1	27.4	30.5	30.5	26.1	27.7
在宅復帰率	%	89.3%	82.1%	100.0%	96.7%	93.3%	82.9%	92.6%	88.6%	92.3%	84.6%	72.7%	86.1%	88.4%	88.4%	90.2%	90.1%
看護必要度	%	13.8%	13.3%	12.9%	11.1%	9.5%	10.6%	12.6%	14.8%	14.6%	13.2%	14.8%	13.5%	12.9%	12.9%	21.6%	19.5%

手術室・サプライ

【職種別スタッフ数】

看護師 3名、CW 2名

(i).総評

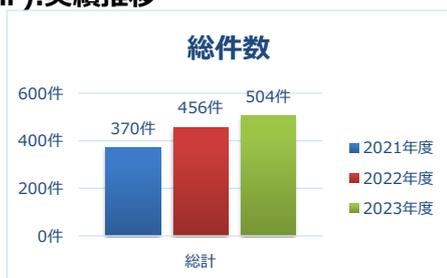
<手術室>

年々手術件数は増加しており、令和5年度は年間500件以上を記録した。患者の高齢化やリスクが高くなっている状況の中で、手術室としては患者の安全性向上のため医師や関連部署との連携に重点を置いている。手術室人員3名であるが、患者が安心して周術期を迎えることが出来るよう看護師による患者訪問達成率100%を継続していく。

<サプライ>

診療材料の供給に問題はなく、安定供給ができています。滅菌の不備や災害時にも供給が滞ることないように材料を備蓄しているが、過剰在庫にならないように管理は徹底している。

(ii).実績推移



(iii).2023年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2023年度	2022年度	2021年度	
手術	人工(股)関節置換術	件	17	17	19	18	24	12	16	19	14	12	13	15	16.3	196	201	174
	膝(肩)関節鏡視下手術	件	8	3	9	10	6	14	8	11	3	11	13	5	8.4	101	69	55
	その他整形手術	件	7	13	11	16	10	28	11	12	4	12	13	11	12.3	148	125	88
	整形外科 合計	件	32	33	39	44	40	54	35	42	21	35	39	31	37.1	445	395	317
	皮膚科	件	4	7	5	7	3	4	4	3	3	5	6	8	4.9	59	61	53
総計	件	36	40	44	51	43	58	39	45	24	40	45	39	42.0	504	456	370	
麻酔	全身麻酔	件	22	21	25	24	25	28	22	28	18	21	19	22	22.9	275	256	209
	局所麻酔	件	6	11	7	7	3	6	8	4	4	5	6	9	6.3	76	91	91
	総計	件	34	43	39	38	31	40	38	36	26	31	31	40	35.6	427	438	391

医療機器管理室

【職種別スタッフ数】 臨床工学技士 1名

(i).総評

医療機器管理室では、年間点検計画書に基づき医療機器の定期点検を行い、修理依頼に関しても院外依頼せず行うことで修理時間の短縮・コストの削減にも努めている。

また、医療機器台帳を作成することで機器の種類や場所の把握ができ、すぐに対応できる様心掛けている。新規購入機器はもちろん、既存の機器においても勉強会・トラブルシューティングを行うことでスタッフの知識の習得や手技の統一を図っている。手術日には術前点検を行うのは勿論、術中の機器操作・間接介助なども行っている。

今後は、医療機器の管理システムを導入することでより一元管理がしやすくなり、現場スタッフも稼働率が確認できるようになる為、業務効率が上がり他職種との連携も取りやすくなることを目標にしていこう。

(ii).新規導入機器（更新含む）

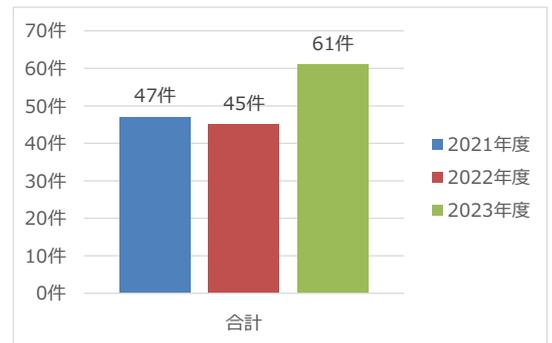
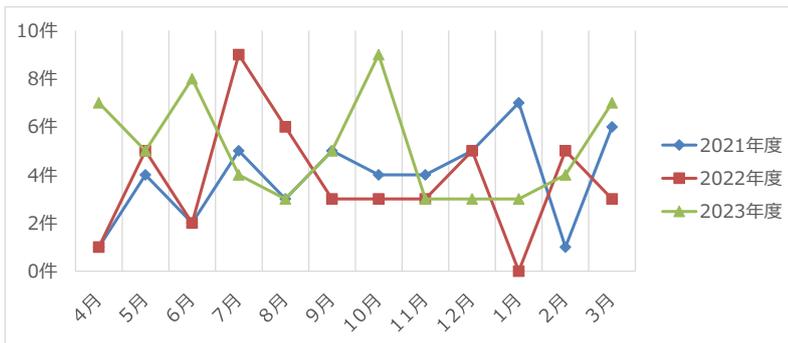


(iii).機器説明会等実施状況

開催日	名称	参加人数
5月26日	酸素療法	2名
5月29日～6月10日	輸液ポンプ・シリンジポンプ	342名
6月9日	医用モニタ・輸液ポンプ	4名
8月18日	シリンジポンプ・除細動器	3名
8月21日～9月20日	医療機器安全基礎講習会	1名
1月12日・19日	人工呼吸器	12名

(iv).実績推移

◆ 総修理依頼件数



(v).2023年度実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比		
															2023年度	2022年度	2021年度
総修理依頼件数	件	7	5	8	4	3	5	9	3	3	3	4	7	5.1	61	45	47
メーカー対応	件	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0.3	4	2	1
技士対応	件	7	5	8	4	2	4	9	2	3	3	4	6	4.8	57	43	46

セラピスト課・テクノエイドセンター

【職種別スタッフ数】 理学療法士 25名、作業療法士 15名、言語聴覚士 5名、リハビリ助手 2名、義肢装具士 1名

(i).総評

(i-I)理学療法

2023年度目標「地域に求められる理学療法士を目指します」に対する行動目標として、「入院時より在宅生活を想定した評価を行い、スムーズな退院を支援します」、「本人・家族・関連職種と情報共有を図る事で相互理解を深め、ゴール設定を行い目標に向けて支援します」の2つを掲げた。院内・在宅部門で連携し毎月各部署の実績報告、業務改善に関する検討、新人職員の業務状況の共有、計画的な勉強会を行った。

回復期病棟では患者一人当たり3単位/日（365日体制）、一般病棟では2単位/日、地域包括ケア病棟では個別リハ以外で集団リハを行う体制（日曜日は休み）を整えており、2023年度の入院中のリハ処方率は平均90%であった。1月～2月に院内でのクラスターが発生し、理学療法の提供が制限される期間があったが、本年度における1ヶ月当たりの平均単位数は前年度に比べ約300単位増加した。

(i-II)作業療法

2023年度は①自動車運転再開支援 ②在宅復帰支援 ③認知症患者への生活支援の3つの強化を重点的に取り組んできた。

①に関しては、ドライシミュレーターの導入に合わせて、これまでの支援マニュアルの改訂を実施した。現在は高次脳機能障害を呈した患者が主な対象となっているが、今後それ以外の対象者へも対応できるように改善する予定である。②に関しては、退院してしばらく経った患者の現状から、入院中の退院支援を振り返る機会を設け、質の高い在宅復帰支援に繋げる試みを開始した。③に関しては、他職種との連携を図る目的で、院外に対する講話の実施や認知症ケアにおける評価の整備を行った。

実績としては、下半期に数名の退職があったが、1月～2月に発生した新型コロナウイルスのクラスターによる提供単位の低下以外は例年と同水準であった。また、例年新人職員の見習い期間となる上半期は提供単位が低下しがちであるが、教育方法の見直しを行うことで緩和することができた。

(i-III)言語聴覚

2023年度は「患者さんの笑顔を引き出せるように、一人ひとりに寄り添ったリハビリテーションを目指します」という目標を掲げ、毎日実施している患者の情報共有や毎週行っている症例検討を通して、食べること、話すことの獲得に向けてST全体の知識向上に努めてきた。2020年度から導入しているVE検査は18件と昨年度に比べ2倍の件数となっている。2024年度上半期の時点でVE検査14件と2023年度の18件に迫っており、医師・看護師と協業しながらさらに経口摂取移行率向上を目指していく。

下半期に入って職員の退職が続き、実務に当たる職員が大幅に減少したことから処方数の制限をする事になり、実績低下の要因となった。その中でも、病棟を跨いだフォローや多職種との連携強化を進めたことで、最低限の提供を行うことができた。

(i-IV)テクノエイドセンター

今年度の装具作製件数は前年度に比べ少し増加している。2年前の診療報酬改定で既製品装具の採寸技術費用が対象外になっているが、実際にはプラス200件ほどの依頼を対応しており、今後も医師の増加により依頼件数の増加が見込まれる。

近年では、皮膚科患者へ靴の調整やインソール相談業務も行っており、診療科を広げて装具依頼件数増加を目指している。

(ii).年度実績

項目		単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
																2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
理学療法	脳血管リハ(I)	単位	2,026	2,021	1,730	1,339	1,205	1,263	1,395	1,395	1,652	1,391	1,563	1,954	1,577.8	18,934	18,631	21,465	19,064
	運動器リハ(I)	単位	1,494	1,585	1,953	2,317	2,532	2,174	2,150	2,102	2,079	1,545	1,562	1,528	1,918.4	23,021	19,560	19,513	33,436
	呼吸器リハ(I)	単位	40	39	71	5	16	44	44	45	7	11	33	123	39.8	478	433	841	928
	廃用リハ(I)	単位	102	123	39	145	181	115	64	120	84	106	115	137	110.9	1,331	1,761	1,616	3,217
	消炎鎮痛	単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	61
	合計	単位	3,662	3,768	3,793	3,806	3,934	3,596	3,653	3,662	3,822	3,053	3,273	3,742	3,647.0	43,764	40,385	43,435	56,706
作業療法	脳血管リハ(I)	単位	2,023	1,881	1,707	1,209	1,114	1,240	1,358	1,519	1,767	1,538	1,502	1,887	1,562.1	18,745	19,392	21,927	19,403
	運動器リハ(I)	単位	772	953	1,039	1,350	1,527	1,275	1,233	1,111	1,138	744	922	917	1,081.8	12,981	11,758	11,621	16,136
	呼吸器リハ(I)	単位	1	22	37	8	0	4	42	29	0	11	18	44	18.0	216	319	527	419
	廃用リハ(I)	単位	105	59	19	126	187	89	91	112	78	78	29	43	84.7	1,016	1,041	1,417	1,885
	合計	単位	2,901	2,915	2,802	2,693	2,828	2,608	2,724	2,771	2,983	2,371	2,471	2,891	2,746.5	32,958	32,510	35,492	37,843
言語聴覚療法	脳血管リハ(I)	単位	745	811	809	702	520	516	606	632	671	549	809	978	695.7	8,348	9,532	10,859	11,266
	廃用リハ(I)	単位	16	8	5	12	0	8	17	5	6	12	5	12	8.8	106	285	299	989
	呼吸器リハ(I)	単位	27	30	18	0	15	37	29	24	0	5	61	51	24.8	297	358	564	553
	合計	単位	788	849	832	714	535	561	652	661	677	566	875	1,041	729.3	8,751	10,175	11,722	12,808

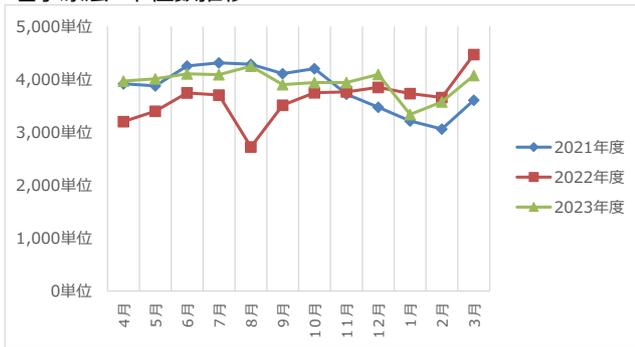
<外来>

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比				
															2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	
理学療法	脳血管リハ(I)	単位	0	2	4	5	8	7	2	2	0	0	4	6	3.3	40	54	24	43
	運動器リハ(I)	単位	307	243	309	277	307	298	285	277	272	284	297	325	290.1	3,481	3,066	2,574	2,301
	消炎鎮痛	単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	20
	合計	単位	307	245	313	282	315	305	287	279	272	284	301	331	293.4	3,521	3,120	2,599	2,364
作業療法	脳血管リハ(I)	単位	1	9	6	4	3	3	6	4	7	0	11	11	5.4	65	78	14	28
	運動器リハ(I)	単位	43	54	54	50	38	71	78	59	68	35	22	26	49.8	598	676	646	710
	消炎鎮痛	単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	27
	合計	単位	44	63	60	54	41	74	84	63	75	35	33	37	55.3	663	754	660	738
言語聴覚療法	脳血管リハ(I)	単位	12	6	3	0	8	8	0	0	12	12	14	22	8.1	97	67	75	57
	合計	単位	12	6	3	0	8	8	0	0	12	12	14	22	8.1	97	67	75	57

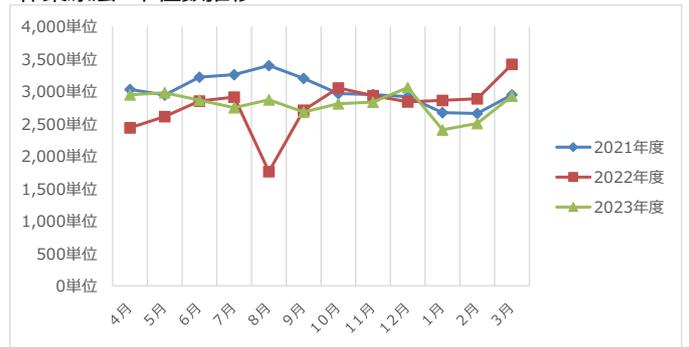
<テクノイドセンター>

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
ギブスシーネ	件	9	10	13	19	10	24	19	13	22	11	16	20	15.5	186	170	131	119
ギブス包帯	件	0	2	4	5	2	3	2	4	4	3	4	4	3.1	37	42	52	17
採寸	件	0	0	0	0	0	7	7	1	1	0	2	1	1.6	19	46	297	267
採型	件	9	9	16	7	8	9	15	8	7	16	12	10	10.5	126	103	87	83
合計	件	18	21	33	31	20	43	43	26	34	30	34	35	30.7	368	361	567	486

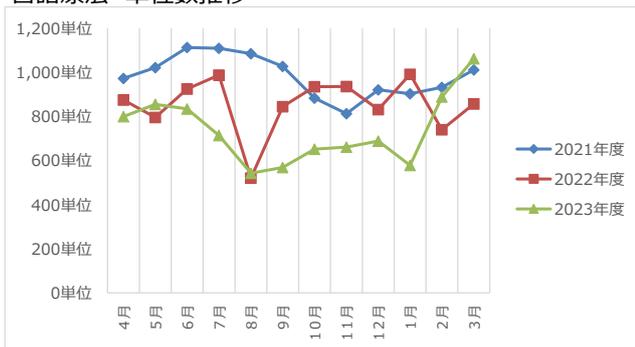
◆ 理学療法 単位数推移



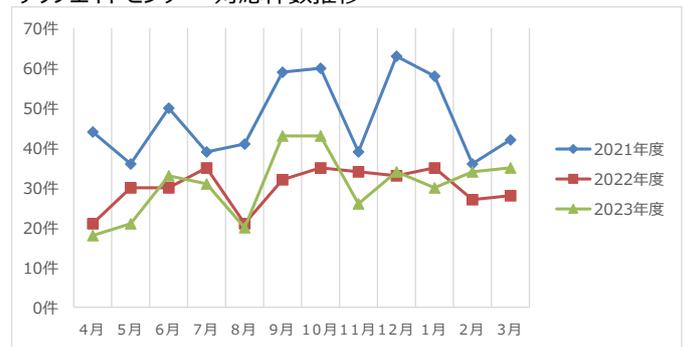
◆ 作業療法 単位数推移



◆ 言語療法 単位数推移



◆ テクノイドセンター 対応件数推移



診療技術部 薬剤課

【職種別スタッフ数】

薬剤師 6名、事務 2名

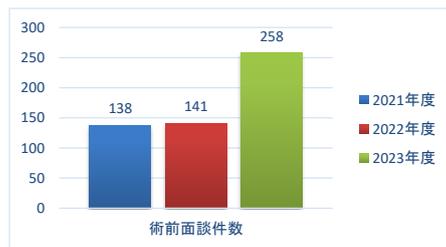
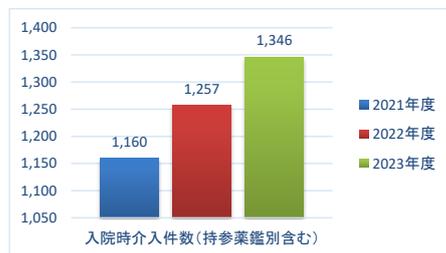
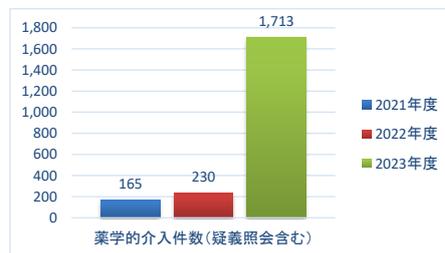
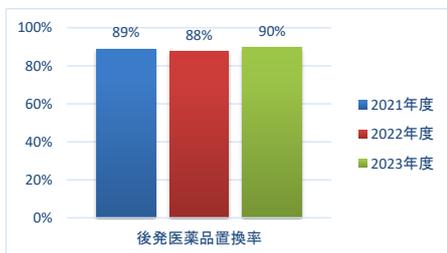
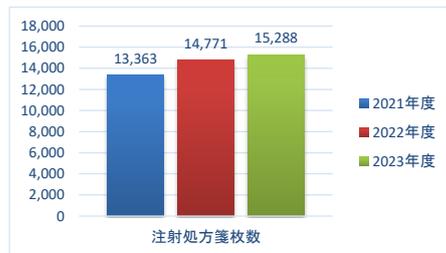
(i) 総評

4月から薬剤師1名の退職により6名体制となったのを機に、働き方改革を進めている。調剤助手を1名から2名に増員し、調剤業務のタスクシフトを行った。薬剤師の勤務時間帯を見直し、効率的な人員配置とした。また、電子カルテや部門システムの機能を見直し、効率化を図った。これらの業務改善活動により、薬剤師人員は減ったものの、時間外労働時間は大幅に短縮し、術前面談等の周術期の介入については、その対象を全症例に拡大できた。

病院機能評価受審の活動を通して、院内の医薬品安全管理体制を整備・強化することができた。

しかしながら、今年度は人員減少に伴う業務整理で縮小せざるを得なかった業務もあり、次年度はさらなるタスクシフトと効率化により、対人業務の拡大を図りたい。

(ii) 実績推移



(iii) 2023年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比		
															2023年度	2022年度	2021年度
処方箋枚数 (院内)	枚	2,469	2,796	2,602	2,525	2,811	2,564	2,609	2,565	2,621	2,251	2,452	2,440	2558.8	30,705	34,115	32,670
処方箋枚数 (院外)	枚	2,365	2,509	2,445	2,387	2,621	2,399	2,643	2,377	2,449	2,434	2,396	2,378	2450.3	29,403	29,135	29,605
注射処方箋枚数	枚	1,220	1,130	1,461	1,434	1,387	1,344	1,191	1,170	1,307	1,210	1,174	1,260	1274.0	15,288	14,771	13,363
後発医薬品置換率	%	90.1%	89.9%	90.2%	89.8%	89.0%	88.5%	86.8%	89.6%	91.1%	91.2%	89.9%	90.0%	89.7%	89.7%	87.6%	88.9%
薬学的介入件数 (疑義照会含む)	件	29	122	181	191	180	152	155	153	137	118	154	141	142.8	1,713	230	165
入院時介入件数 (持参薬鑑別含む)	件	108	103	108	108	130	114	123	122	116	91	120	103	112.2	1,346	1,257	1,160
薬剤管理指導料算定件数	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	901	0
薬剤管理サマリー発行件数	件	53	44	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8.7	104	1,069	1,006
術前面談件数	件	14	13	10	28	20	34	23	24	27	21	23	21	21.5	258	141	138

診療技術部 放射線課

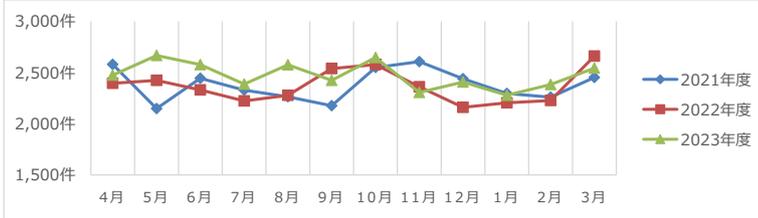
【職種別スタッフ数】 放射線技師 5名

(i).総評

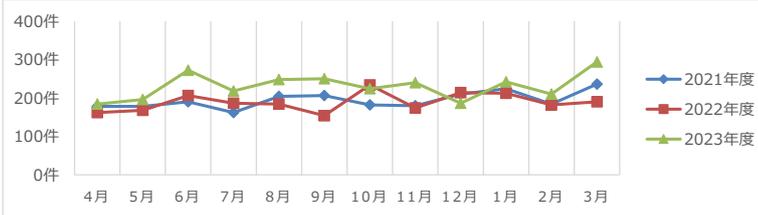
CTの件数を年度比較すると、月平均は2022年度が94件、2023年度が115件（22%増）であった。
 2022年9月末にCT装置が更新された。画像がより鮮明になり、診療科が求める情報を提供できていると考える。スタッフ数は不足しているが、検査数の増加に対応するため、検査の効率化を行い、可能な限り検査を断らずに実施している。
 今後はさらに質の高い画像を提供できるように課内で情報を共有し、新しい技術にも挑戦する。

(ii).実績推移

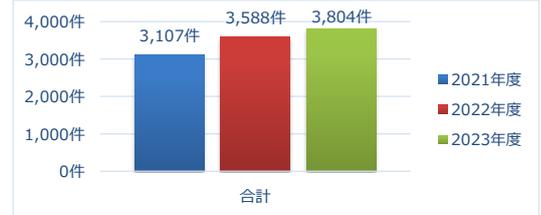
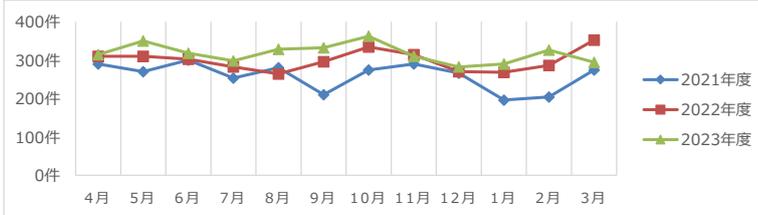
◆ 一般撮影



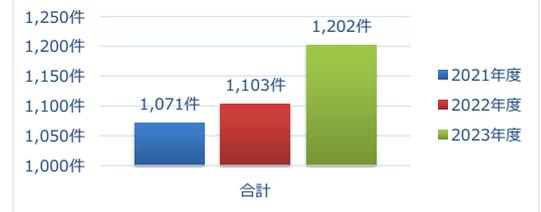
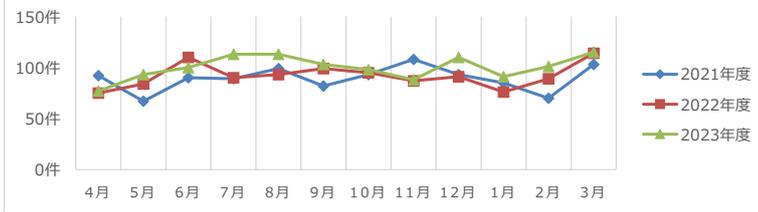
◆ CT撮影



◆ MRI撮影



◆ 骨塩定量



(iii).2023年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2023年度	2022年度	2021年度	
一般撮影	外来	件	957	1,019	1,009	914	918	923	1,011	834	884	823	923	975	932.5	11,190	10,946	10,616
	入院	件	1,517	1,647	1,567	1,472	1,656	1,501	1,635	1,472	1,522	1,455	1,459	1,567	1539.2	18,470	17,426	17,922
CT撮影	外来	件	152	156	220	172	184	196	160	192	150	188	160	220	179.2	2,150	1,746	1,612
	入院	件	32	40	52	46	64	54	64	48	36	54	50	74	51.2	614	520	722
MRI撮影	外来	件	286	328	298	272	296	296	336	294	264	270	290	276	292.2	3,506	3,372	2,785
	入院	件	28	22	20	26	32	36	26	16	18	20	36	18	24.8	298	216	322
透視造影	件	12	19	19	19	27	39	31	26	21	26	28	25	24.3	292	286	174	
骨密度測定検査	件	77	93	100	113	113	103	98	88	110	91	101	115	100.2	1,202	1,103	1,071	

診療技術部 臨床検査課

【職種別スタッフ数】 臨床検査技師 9名

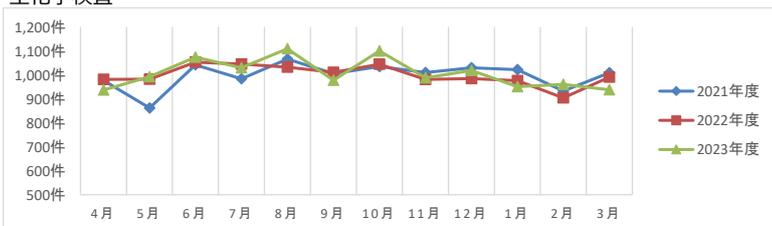
(i).総評

2023年度の検体検査では、コロナ収束傾向に伴いPCR検査は減少した。生理検査では腹部エコーの増加、泌尿器エコーの減少となった。要因として、前者は検査勧奨の成果、後者は泌尿器科の廃止によるものである。検査課の体制は、4月より治験臨床研究部と統合し、治験業務も合わせた人材育成と人員配置で繁忙な状況を極めたが、スタッフ一丸となって円滑な運営に近づいている。5月に検査システム更新を行い暫くは調整が続いたが、結果報告での質向上への取り組みが出来た。

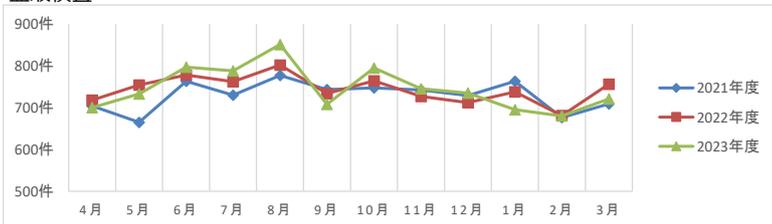
6月に日臨技品質保証施設認証を取得した。同月の適時調査、10月に病院機能評価、翌1月に院内感染対策委員会の外部監査を受けて、指摘箇所は適宜是正をかけ、特に報告体制・環境整備・精度管理の強化ができた。今年度は機器更新はなかったが、伝導速度検査で新たに脳神経内科での神経障害診断検査を整備した。来年度は新人教育と心電計の更新を計画している。病院理念の下、新人教育に取り組みつつ、改めて各分野での体制を確認し、医師への迅速かつ正確で付加価値のある結果報告に努め、患者さんに貢献していきたい。

(ii).実績推移

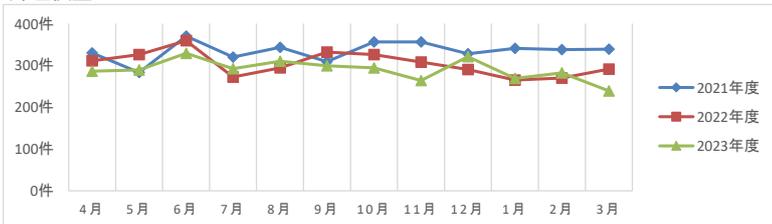
◆ 生化学検査



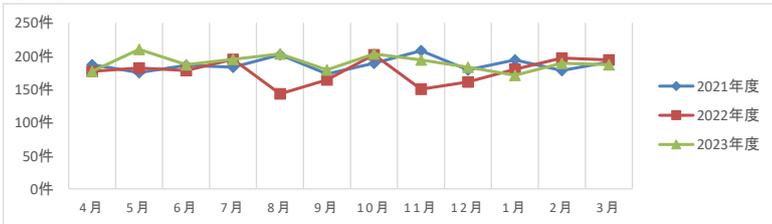
◆ 血液検査



◆ 外注検査



◆ 心電図



◆ 超音波



(iii).2023年度 実績

項目		単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比				
																2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	
検体検査	生化学	外来	件	614	640	689	679	748	634	716	620	657	607	626	594	652.0	7,824	7,542	7,845	7,552
		入院	件	323	352	385	351	361	344	384	368	361	344	334	344	354.3	4,251	4,443	4,130	4,176
	血液一般	外来	件	398	411	436	430	488	392	445	389	407	394	386	409	415.4	4,985	4,781	4,879	4,645
		入院	件	302	322	361	358	363	316	350	356	328	301	294	312	330.3	3,963	4,145	3,869	4,063
	尿	外来	件	405	434	432	431	483	389	464	380	383	359	364	352	406.3	4,876	5,126	4,833	4,605
		入院	件	275	217	242	248	245	220	230	229	233	260	283	247	244.1	2,929	3,458	3,082	2,628
	外注	外来	件	222	230	259	229	251	236	229	204	250	209	215	191	227.1	2,725	2,664	2,938	2,821
		入院	件	64	59	70	63	59	63	65	60	71	60	67	48	62.4	749	980	1,075	1,201
	合計	外来	件	1,639	1,715	1,816	1,769	1,970	1,651	1,854	1,593	1,697	1,569	1,591	1,546	1700.8	20,410	20,113	20,495	19,623
		入院	件	964	950	1,058	1,020	1,028	943	1,029	1,013	993	965	978	951	991.0	11,892	13,026	12,156	12,068
総計		件	2,603	2,665	2,874	2,789	2,998	2,594	2,883	2,606	2,690	2,534	2,569	2,497	2691.8	32,302	33,139	32,651	31,691	

項目		単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比				
																2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	
生理検査	心電図	外来	件	110	134	114	122	116	115	120	104	100	102	104	116	113.1	1,357	1,332	1,388	1,331
		入院	件	67	76	73	73	87	64	83	90	83	69	85	71	76.8	921	791	857	860
	血圧脈波	外来	件	15	27	29	18	20	22	20	18	28	16	21	23	21.4	257	233	202	237
		入院	件	8	8	7	7	3	5	3	7	4	3	9	4	5.7	68	54	60	85
	眼底	外来	件	24	18	21	15	23	18	17	15	14	18	10	13	17.2	206	178	200	170
		入院	件	4	7	4	4	4	3	4	6	3	4	7	5	4.6	55	59	63	67
	肺機能	外来	件	25	38	33	27	29	27	30	24	32	20	26	29	28.3	340	300	243	226
		入院	件	1	2	0	1	1	2	2	0	3	0	1	2	1.3	15	14	10	30
	肺機能	外来	件	30	42	38	29	33	34	32	25	39	20	32	31	32.1	385	326	254	237
		入院	件	1	2	0	1	1	3	2	0	4	0	1	3	1.5	18	14	10	30
	ホルター	外来	件	7	8	5	3	5	2	6	5	5	3	3	9	5.1	61	64	59	68
		入院	件	3	1	2	1	2	1	1	1	2	0	2	0	1.3	16	19	8	28
	超音波(腹部)	外来	件	41	58	55	52	88	83	89	68	40	42	27	32	56.3	675	326	386	298
		入院	件	6	8	10	12	4	7	12	8	8	6	9	4	7.8	94	84	97	133
	超音波(腎膀胱)	外来	件	2	1	0	1	0	2	0	0	0	2	2	1	0.9	11	105	119	128
		入院	件	0	3	3	0	3	2	0	2	2	0	0	0	1.3	15	26	42	37
	超音波(頸部)	外来	件	2	1	7	5	2	5	18	11	17	20	13	9	9.2	110	47	45	50
		入院	件	0	1	0	1	1	5	3	2	1	2	2	0	1.5	18	9	5	22
	超音波(下肢)	外来	件	38	52	43	39	46	35	39	40	34	34	36	43	39.9	479	478	388	359
		入院	件	36	37	43	38	43	43	52	51	48	44	41	32	42.3	508	628	623	492
超音波(心臓)	外来	件	36	52	45	41	39	32	32	41	32	44	44	42	39.0	468	438	400	370	
	入院	件	7	6	6	9	6	10	11	7	12	4	9	3	7.5	90	69	71	150	
超音波(その他)	外来	件	8	5	8	4	6	6	8	4	6	3	4	4	5.5	66	63	95	43	
	入院	件	0	1	1	0	0	0	0	2	1	0	0	1	0.5	6	0	7	13	
合計	外来	件	338	436	398	356	407	381	411	346	356	312	322	352	367.9	4,415	3,890	3,779	3,517	
	入院	件	133	152	149	147	155	145	173	176	171	132	166	125	152.0	1,824	1,767	1,853	1,947	
総計		件	471	588	547	503	562	526	584	522	527	444	488	477	519.9	6,239	5,657	5,632	5,464	

診療技術部 栄養管理課

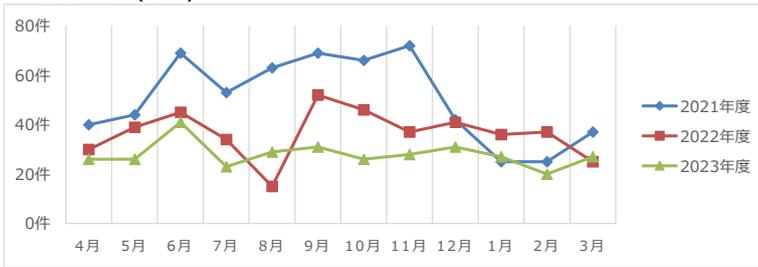
【職種別スタッフ数】管理栄養士 3名

(i).総評

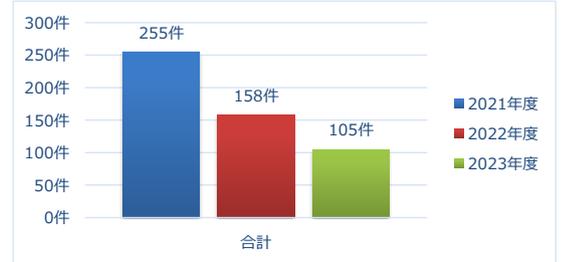
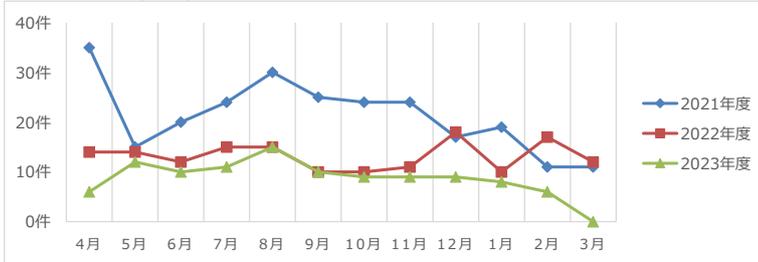
管理栄養士3名での運営だったが、安全安心な食事提供、低栄養状態改善と在宅復帰に向けた栄養管理、そのための体制構築を目標として取り組んだ。安全・安心な食事提供については委託給食会社との連携を意識し、共に衛生ラウンドや献立検討をおこない課題や認識の共有を図った。緊急入院患者への食事提供や提供食種の見直し等も行った。栄養管理については、日々のラウンドやNST、糖尿病・褥瘡・骨粗鬆症などチーム医療に参画し活動した。栄養指導件数は入院335件・外来105件と例年より減少したが、食事満足度63%（退院時アンケートにて満足・大変満足と回答した者）、特別食比率54%、NSTチーム介入による67件の改善（介入終了）等の実績も上がった。次年度からは各病棟への管理栄養士配置体制がとれるため、入院中の栄養管理・指導の充実や退院後の他院・施設との連携等、より寄り添った栄養管理に努めていきたい。

(ii).実績推移

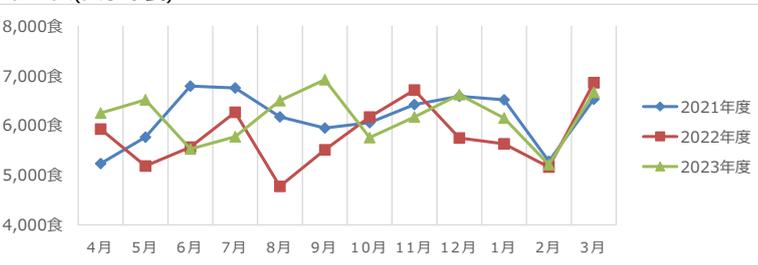
◆ 栄養指導件数(入院)



◆ 栄養指導件数(外来)



◆ 特別食(食事療養)



(iii).2023年度実績

項目	単位	2023年度実績												月平均	年度対比				
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	
栄養指導	入院	件	26	26	41	23	29	31	26	28	31	27	20	27	27.9	335	437	605	696
	集団	件	0	0	0	0	2	0	0	0	5	0	0	17	2.0	24	0	0	0
	人間ドック	件	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	2	1	1	2
	骨粗鬆症	件	8	8	10	7	5	3	3	3	8	4	1	6	5.5	66	86	155	118
	回復期	件	8	5	11	8	8	15	9	5	8	7	6	10	8.3	100	108	164	193

項目	単位	2023年度実績												月平均	年度対比				
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	
常食	食	1,785	2,006	2,332	2,234	1,788	1,877	2,166	1,565	1,862	2,089	2,073	2,074	1,987.6	23,851	23,115	24,228	26,619	
特食	加算	食	6,248	6,514	5,526	5,770	6,495	6,917	5,755	6,169	6,617	6,146	5,211	6,662	6,169.2	74,030	69,478	74,021	67,298
	非加算	食	2,785	2,739	2,829	3,109	3,220	2,208	2,918	3,473	3,237	2,946	2,545	2,185	2,849.5	34,194	30,527	30,468	37,636
特食経管	非加算	食	367	471	312	337	339	193	341	207	192	4,741	527	413	703.3	8,440	3,940	5,648	4,913

地域医療連携室

【職種別スタッフ数】 看護師 3名、MSW 4名、事務 2名

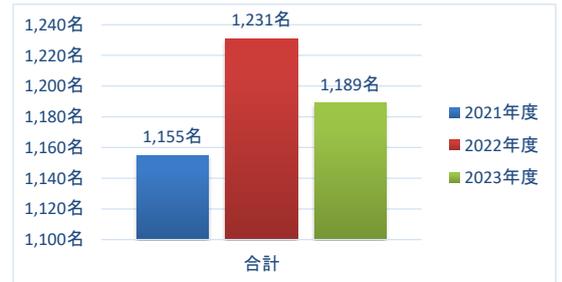
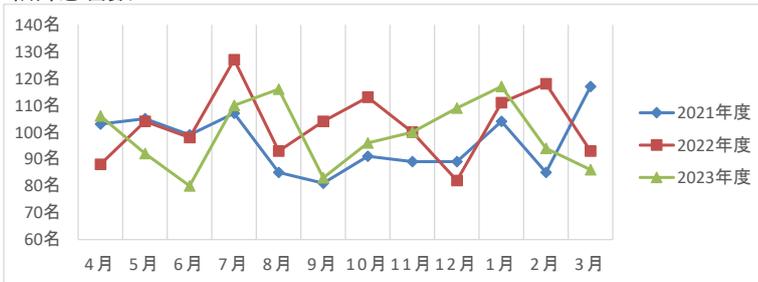
(i). 総評

2023年度は看護師3名、MSW4名、クレーク1名の構成員であった。紹介患者数は1,189名（前年比▲45名）と減っているが、救急告示病院になってからは外来経由の緊急入院患者数が増えており、入院患者総数は前年比+4.8%であった。紹介元の転院希望日との誤差は1.7日だった（前年比▲2.3日）。

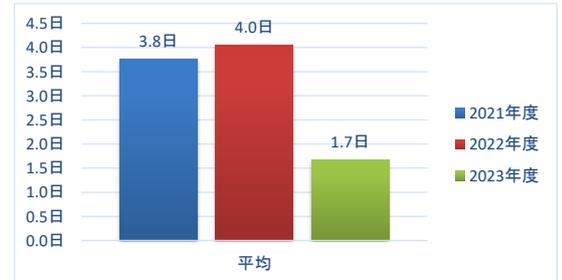
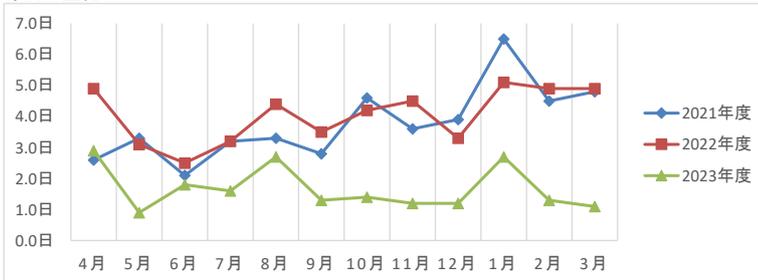
患者相談窓口の対応件数は4,478件で、内訳は面談680件、担当者会議125件、カンファ279件、電話相談3,214件、その他180件だった。診療報酬加算においてはシームレス連携加算41件（前年比+10件）、入退院支援加算Ⅰ算定率93.82%だった（前年比0.38P）。地域の病院・施設への訪問は23件/年行い、連携強化と集患を図った。また、「にしくまカフェ」は褥瘡をテーマに開催し、35施設から75名の参加、総計115名の参加人数を集めた。

(ii). 実績

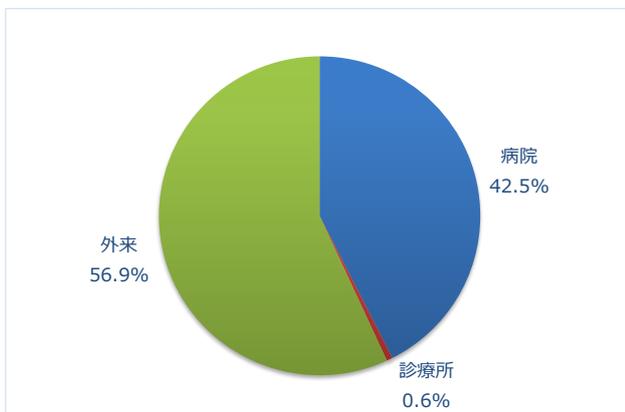
◆ 紹介患者数



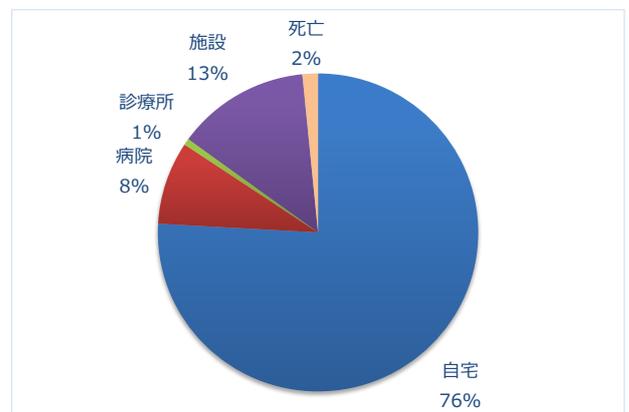
◆ 待機日数



◆ 2023年度 入院経路内訳



2023年度 退院紹介先内訳



(iii). 2023年度 実績

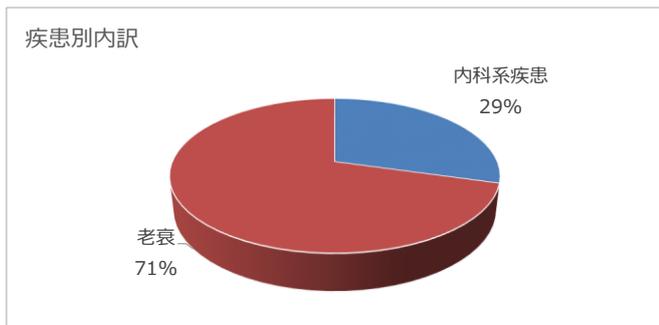
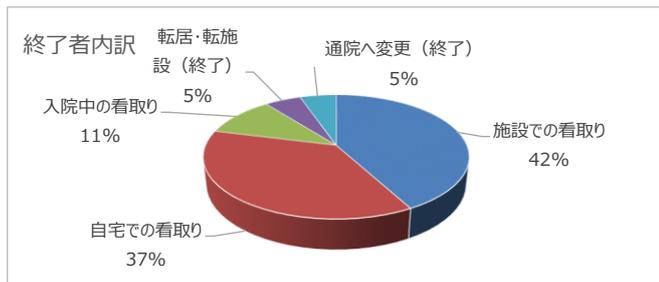
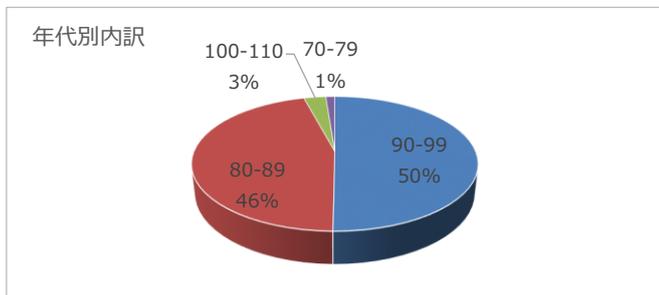
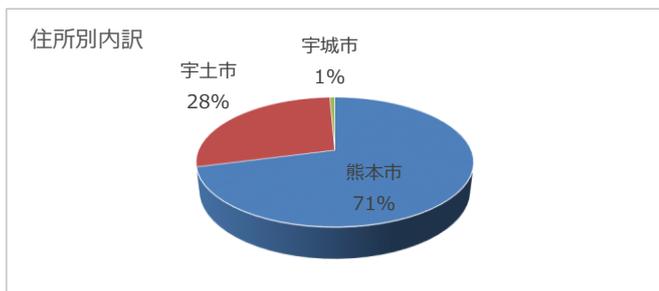
項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比		
															2023年度	2022年度	2021年度
紹介患者数	日	106	92	80	110	116	83	96	100	109	117	94	86	99.1	99.1	102.6	96.3
待機日数	件	2.9	0.9	1.8	1.6	2.7	1.3	1.4	1.2	1.2	2.7	1.3	1.1	1.7	1.7	4.0	3.8

訪問診療

(i) 総評

2023年度においては複数の内科医で訪問診療を行った。
 実人数52人に対し、述べ525回の訪問診療を実施。
 健康維持や異常の早期発見に努め緊急時には往診や緊急搬送等に対応している。
 11人の方が住み慣れた自宅や施設で看取ることができた。癌や心不全等の慢性期疾患末期状態などの訪問診療のニーズは増加している。
 今後も訪問診療による地域医療への支援を継続して行っていく。

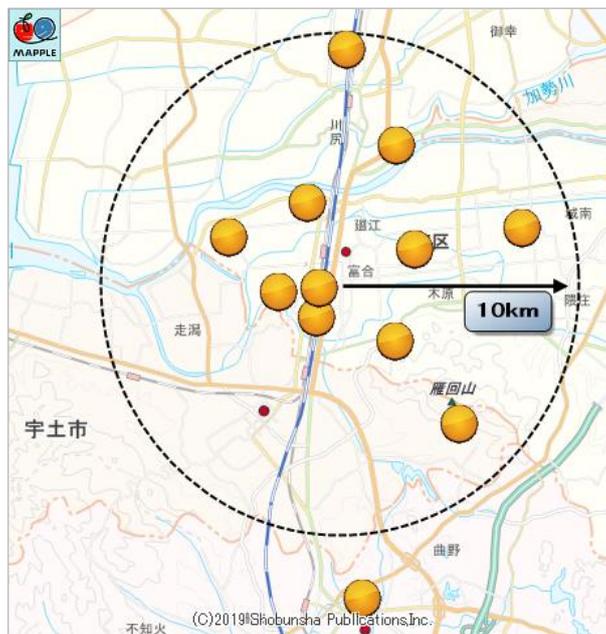
(ii) 実績推移



(iii) 在宅看取り一覧

件数	年齢	性別	場所
1	99歳	女性	施設
2	101歳	女性	施設
3	94歳	女性	施設
4	92歳	女性	施設
5	88歳	女性	施設
6	74歳	男性	施設
7	90歳	女性	施設
8	83歳	男性	施設
9	102歳	女性	自宅
10	86歳	女性	自宅
11	84歳	女性	自宅
12	90歳	男性	自宅
13	85歳	女性	自宅
14	75歳	男性	自宅
15	101歳	女性	自宅

(iv) 在宅看取り地域分布



居宅介護支援事業所

【職種別スタッフ数】 ケアマネージャー 6名

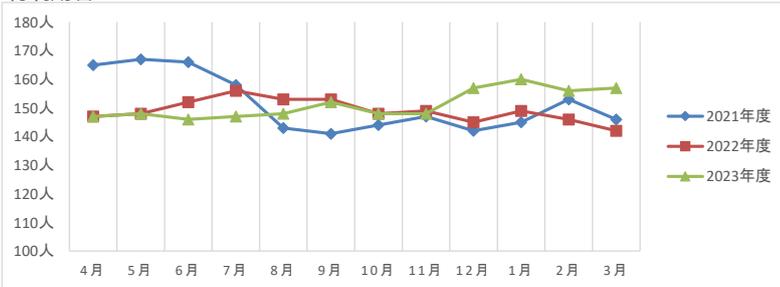
(i). 総評

令和5年11月より6名体制へ変わり、受け入れ利用者数を増やそうとスタッフ全員で意識して取り組んでいる。新規に関しては、【院内21件・院外40件】からの相談によるものである。そのうち院外の内訳として、御家族から直接依頼の相談が7件あった。終了件数の内訳に関しては、【施設入所7件・逝去17件・サービス終了や要支援認定等による担当変更15件】であった。

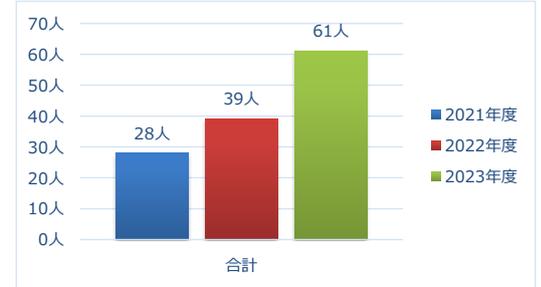
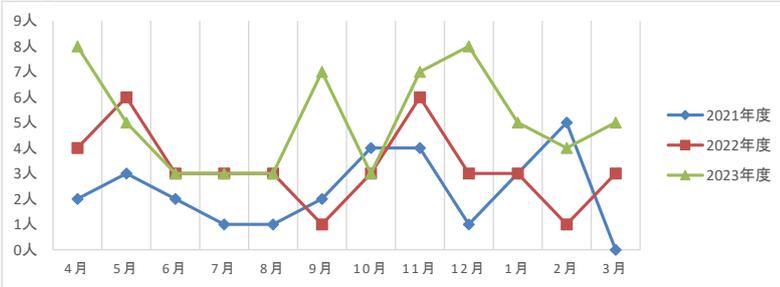
御家族から直接担当の依頼が来るようになった事は嬉しい事である。スタッフ全員が接遇面を含め、利用者・御家族に真摯に対応してきた成果であるとする。医療機関や介護サービス事業所、地域包括支援センターや地域の方等と連携を図りながら、利用者・家族が今後も地域で安心して生活していけるよう丁寧な支援を心がけていく。

(ii). 実績推移

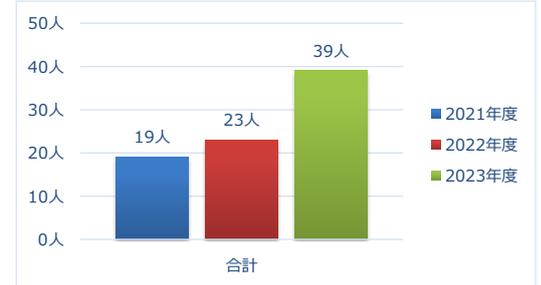
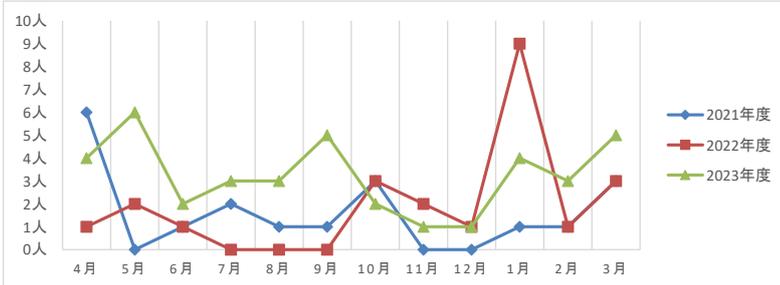
◆ 総利用者



◆ 新規



◆ 終了



(iii). 2023年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比		
															2023年度	2022年度	2021年度
総利用者	人	147	148	146	147	148	152	148	148	157	160	156	157	151.2	151.2	149.0	151.4
新規利用者	人	8	5	3	3	3	7	3	7	8	5	4	5	5.1	5.1	3.3	2.3
終了者	人	4	6	2	3	3	5	2	1	1	4	3	5	3.3	3.3	1.9	1.6

通所リハビリテーション れんげ草

【職種別スタッフ数】 看護師 1名、准看護師 2名、理学療法士 3名、作業療法士 3名、介護福祉士 7名、CW 5名

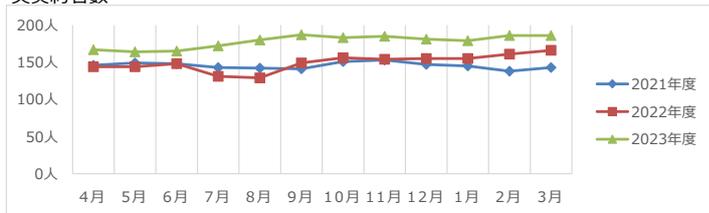
(i).総評

2023年度は、『あなたのなりたい自分を応援します！』をコンセプトとし、新型コロナウイルス流行期前の売上に戻すことを目標に取り組んだ。登録者数172名からスタートしたが、年間で終了48名に対し、新規利用者80名（要支援：41名、要介護：39名）を受入れ、目標値を超える204名まで増加した。1日平均利用者数は、最大で50.5名（3月）となり、売上1000万を達成した。利用者数や売上は、新型コロナウイルス流行期前の数値に戻りつつあり、移動図書や餅つきなど行事も再開することができた。

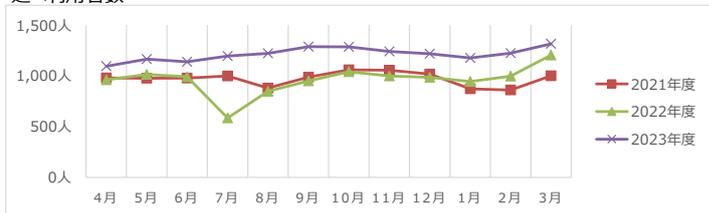
次年度は、登録者数218名、平均利用者数52名/日、平均売上1050万/月を目指し、新規利用者獲得に向けて、院内との後方連携や近隣居宅との連携を強化していく。また、小集団活動の充実や買い物・公共交通機関の利用など社会参加につながる取り組みを積極的に取り入れ、利用者満足度の向上につながるよう努めていきたい。

(ii).実績推移

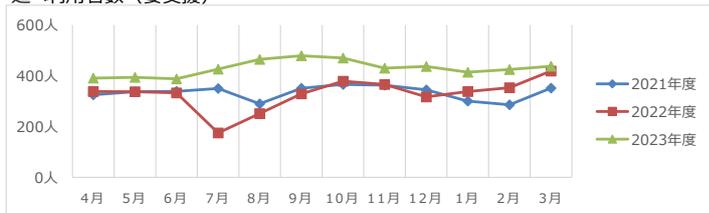
◆ 実契約者数



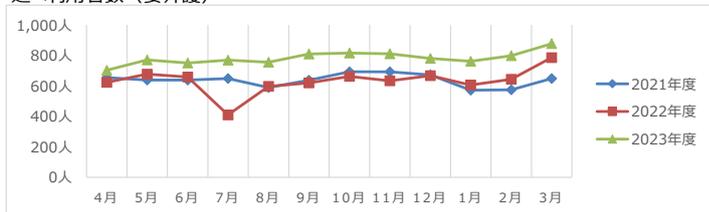
◆ 延べ利用者数



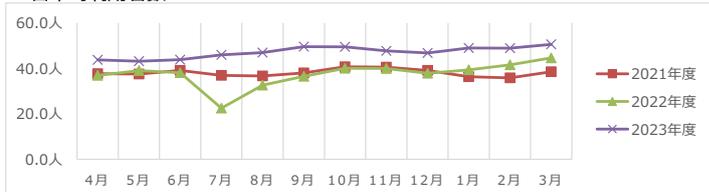
◆ 延べ利用者数（要支援）



◆ 延べ利用者数（要介護）



◆ 一日平均利用者数



(iii).2023年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
実契約者数	人	167	164	165	172	180	187	183	185	181	179	186	186	177.9	177.9	149.3	145.5	152.8
延べ利用者数	人	1,094	1,165	1,139	1,195	1,221	1,288	1,286	1,241	1,217	1,176	1,223	1,315	1213.3	1,213.3	959.9	972.0	910.8
延べ利用者数（要支援）	人	391	394	388	426	465	479	470	430	437	414	425	438	429.8	429.8	327.9	333.7	332.9
延べ利用者数（要介護）	人	703	771	751	769	756	809	816	811	780	762	798	877	783.6	783.6	632.0	638.3	577.9
一日平均利用者数	人/日	43.8	43.1	43.8	46.0	47.0	49.5	49.5	47.7	46.8	49.0	48.9	50.6	47.1	47.1	37.4	38.1	35.8

訪問看護ステーション きんもくせい

【職種別スタッフ数】 看護師 6名

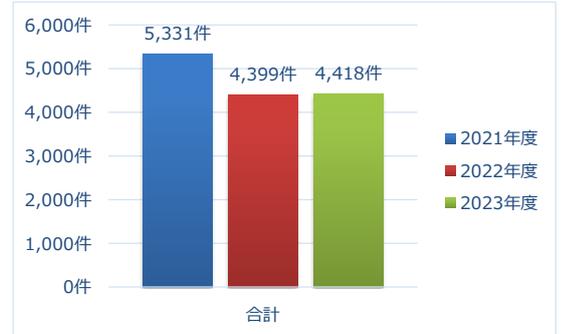
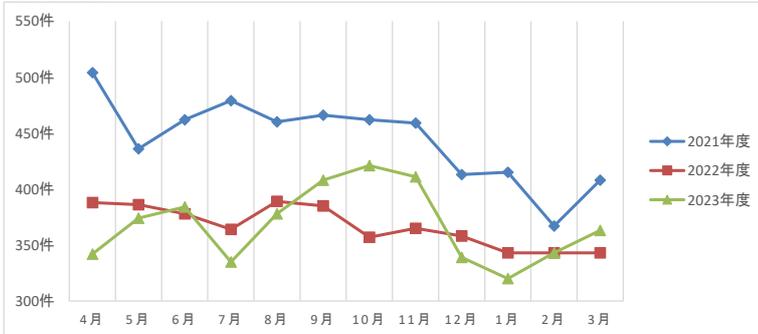
(i).総評

新型コロナウイルス感染症の影響による訪問控えは前年度に比べ少なくはなかったが、介護施設でのクラスター発生が時々あった。また、難病等での長期在宅療養者利用の終了が数件あり、総訪問件数は前年度と大きな差はなかった。一人当たり件数が増加しているのはスタッフの人員減によるもの。看取り10件、連携事業所約20カ所と連携しており、多岐にわたる在宅療養の相談には経験豊富な訪問看護師が対応している。また、セラピストによる安全な住環境整備へのアドバイスも行っている。

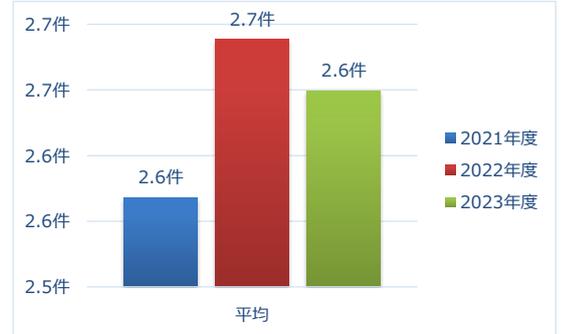
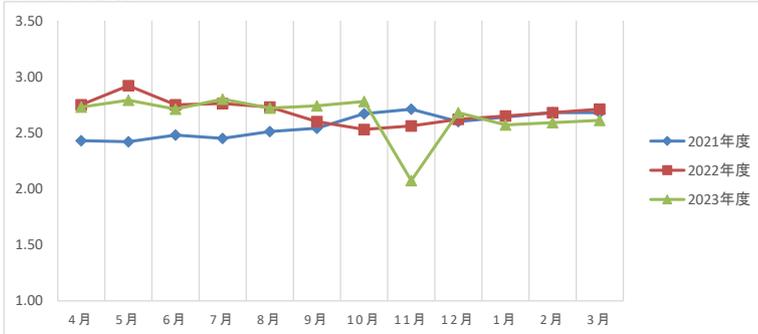
今後も利用者に寄り添った看護の提供に努め、安心してその人らしい在宅生活を送ることができるよう、24時間体制で支援していく。

(ii).実績推移

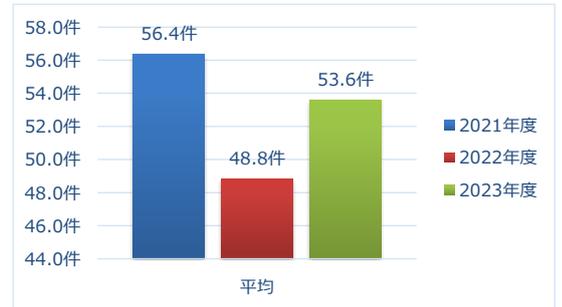
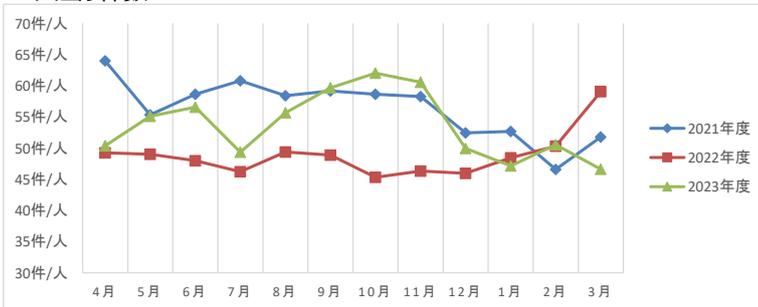
◆ 訪問件数



◆ 平均介護度



◆ 一人当たり件数



(iii).2023年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
営業日数	日	24	24	26	25	26	24	25	24	26	23	23	25	24.6	24.6	24.3	24.5	24.3
訪問件数	件	342	374	384	335	378	408	421	411	339	320	343	363	368.2	368.2	366.6	444.3	485.4
平均介護度		2.73	2.79	2.71	2.80	2.72	2.74	2.78	2.07	2.68	2.57	2.59	2.61	2.65	2.65	2.69	2.57	2.46
一人当たり件数	件/人	50.4	55.1	56.6	49.3	55.7	59.6	62.0	60.5	49.9	47.1	50.5	46.6	53.6	53.6	48.8	56.4	54.0

訪問リハビリテーション

【職種別スタッフ数】 理学療法士 3名、作業療法士 2名

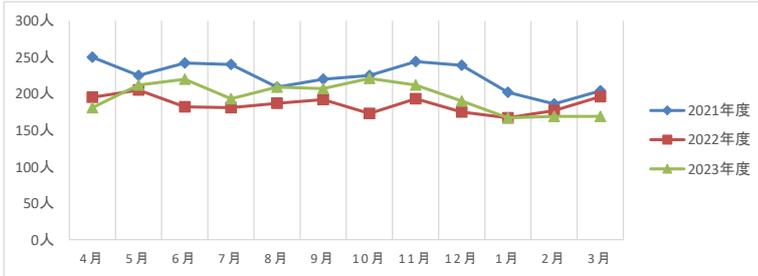
(i) 総評

令和5年度は前年同月を上回る数値となった。登録利用者は月平均39名、年間通して新規者35名、終了者34名で推移した。回転率80%、社会参加を獲得しての終了が61%と高い数値を達成し、利用者の目標に沿った質の高いリハビリテーションを提供できた。コロナ流行期は新規者の大半が退院後の介入であったが、5類移行後は在宅からの相談依頼数が増えてきている。他事業所との連携を電話連絡から対面での連携に変更し、より密な連携やサービス提供に繋がった成果と考えている。

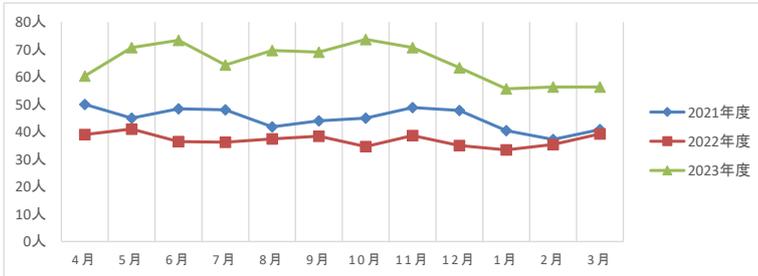
次年度は登録者45名を目標に、新規利用者の獲得に向けて院内、近隣事業所との連携を強化していきたい。また、入院中から退院支援に携わる取り組みを行い、退院直後の生活がより安全に、また自分らしい生活が送るようリハビリテーションの質を高めていきたい。

(ii) 実績推移

◆ 訪問件数



◆ 職員一人当たり担当件数



※訪問看護ステーション支援人数を除く

(iii) 2023年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
訪問件数	件	181	212	220	193	209	207	221	212	190	167	169	169	195.8	195.8	185.3	223.8	254.5
職員一人当たり担当件数	件/人	60.3	70.7	73.3	64.3	69.7	69.0	73.7	70.7	63.3	55.7	56.3	56.3	65.3	65.3	37.1	44.8	50.9
常勤換算	人	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	36	36	69	102

ホスピタウンハウス

サービス付き高齢者向け住宅（戸数：33戸）

【職種別スタッフ数】 看護師 2名、准看護師 2名、介護福祉士 11名、CW 2名、ケアマネジャー 1名、介護サポーター 1名、理学療法士 1名

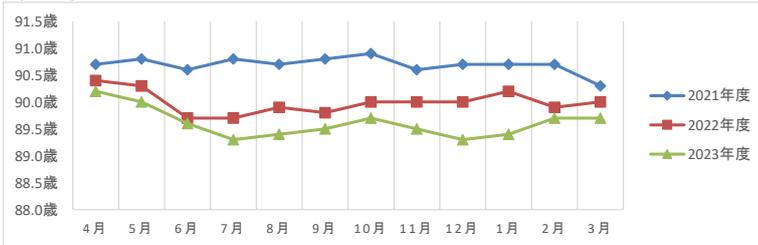
(i) 総評

ホスピタウンハウスは、2014年1月に開設し10年目を迎えた。病院に隣接している生活の場であり『笑顔の絶えない終の棲家』となるよう取り組んできた。入居者が安心安全に、そして穏やかに過ごせる場所となる事を目指している。

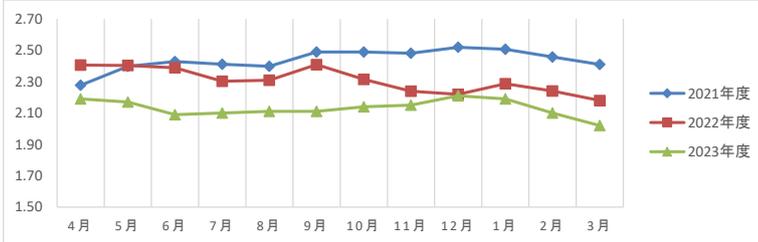
令和5年度は入居7名、退去6名だった。退去の内訳は、全て施設内の看取りである。看取り後は多職種でケアを振り返り、より良いケアに繋がるようカンファレンスを行っている。入居を考えられた際、住み慣れた場所からの環境の変化、支援体制が気になると思う。そのため、ショートステイで施設の生活を体験してもらうことを提案している。入居後はひとりひとりにあった個別ケアを行い、入居者が安心して生きがいを持って生活できる施設』をコンセプトとし、入居者とご家族に「ホスピタウンハウスで過ごせて良かった。」と言ってもらえるよう努めていく。

(ii) 実績推移

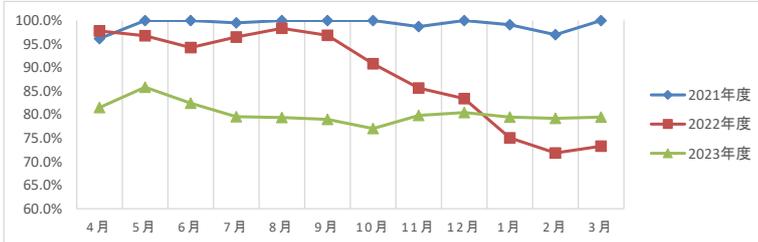
◆ 平均年齢



◆ 平均要介護度



◆ 入居率



(iii) 2023年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
月平均入居者数	人/日	26.9	28.3	27.2	26.8	26.2	26.1	25.4	26.3	26.6	26.2	26.1	26.2	26.5	26.5	29.2	32.7	31.3
平均年齢	歳	90.2	90.0	89.6	89.3	89.4	89.5	89.7	89.5	89.3	89.4	89.7	89.7	89.6	89.6	90.0	90.7	90.3
新入居者数	人	3	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0.6	0.6	0.8	0.7	0.9
退去者数	人	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0.3	0.3	1.5	0.5	0.7
看取り	件	0	1	2	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0.5	0.5	0.9	0.3	0.2
平均要介護度		2.19	2.17	2.09	2.10	2.11	2.11	2.14	2.15	2.21	2.19	2.10	2.02	2.13	2.13	2.31	2.44	2.29
入居率	%	82%	86%	82%	80%	79%	79%	77%	80%	80%	79%	79%	79%	80.3%	80.3%	88.4%	99.2%	94.8%

臨床薬理センター

【職種別スタッフ数】 医師3名、看護師 9名、治験補助 2名、薬剤師 2名、臨床検査技師 8名、事務 16名

(i).総評

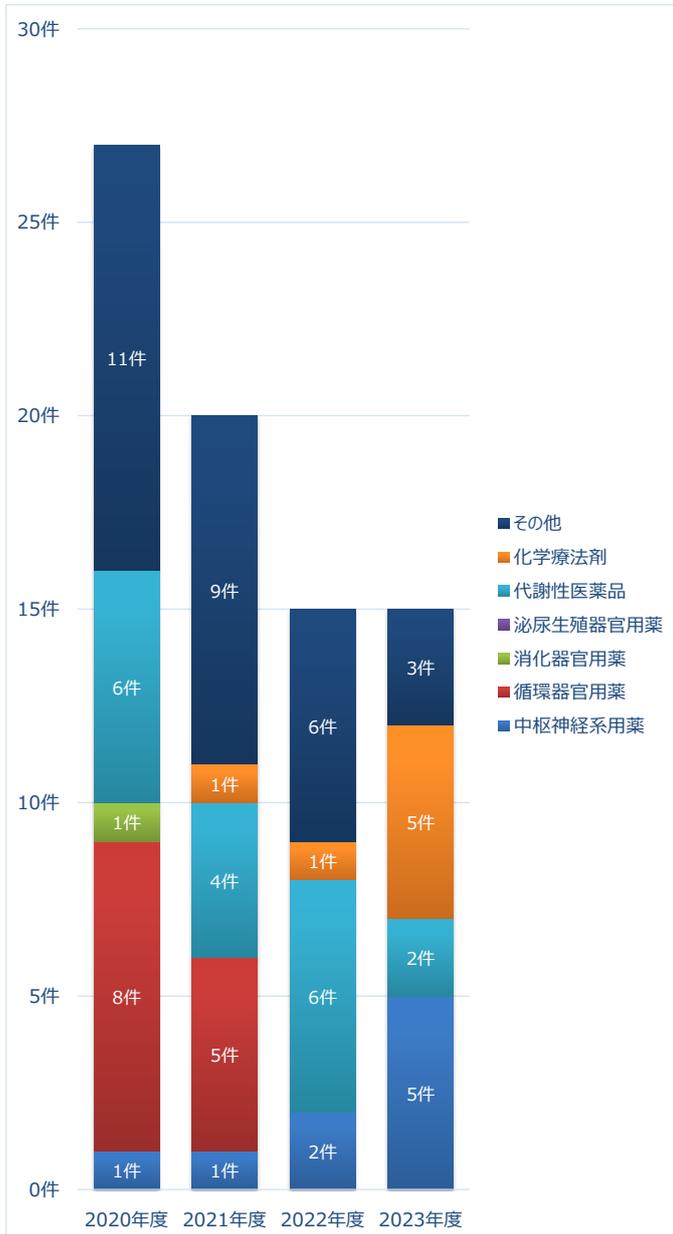
2023年度は新型コロナウイルスによるパンデミックが終息に向かいはじめ、以前の治験実施に近い状況で実施ができるようになった。コロナワクチンに関しては、新たな作用機序によるワクチンの開発も進んでおり、当院では3試験の受託を行い実施をした。今後、製薬会社はコロナワクチンの開発技術を用いて様々なウイルスのワクチンの開発を進めており、それに対応できるよう被験者の募集や実施体制を整えていく。

入所を伴う試験も増えてきており、コロナ禍では1部屋の入所制限を行っていたが、感染対策を十分行った上で入所制限を解除し、より多くの治験の実施ができるよう受け入れの体制を整えた。しかしながら、コロナ禍により被験者の参加希望は減ってきており、その影響は続いている。新薬の開発に欠かせない治験は被験者なしには実施できないため、学生や企業向けに啓発活動を行うことでその重要性を知ってもらうような活動を行い、治験実施が滞りなく進むよう取り組んでいく。

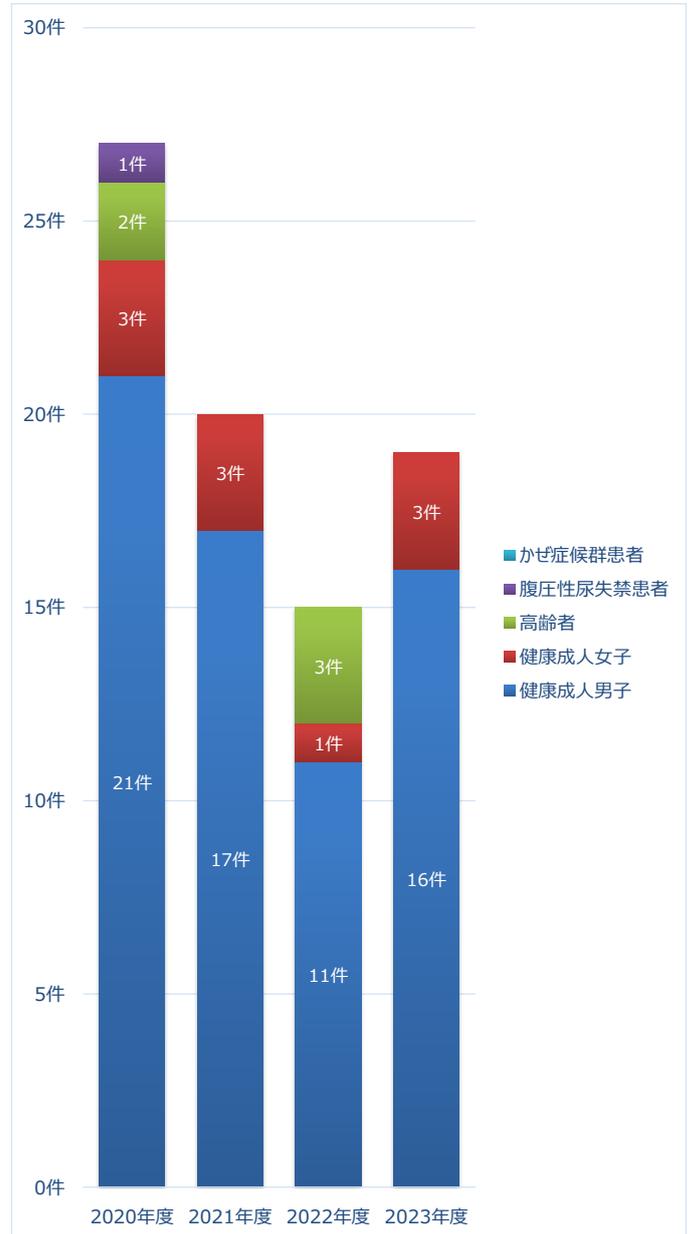
(ii).実績推移

項目	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
実施試験数	件	27	20	15	16
新規登録数	件	666	693	775	680
健康診断実施数	件	1,257	1,037	1,177	1,421

(iii).年間試験数（薬効別）



(iv).年間試験数（対象者別）



健診センター

【職種別スタッフ数】 看護師 3名、准看護師 1名、保健師 2名、臨床検査技師 1名、事務 2名

(i).総評

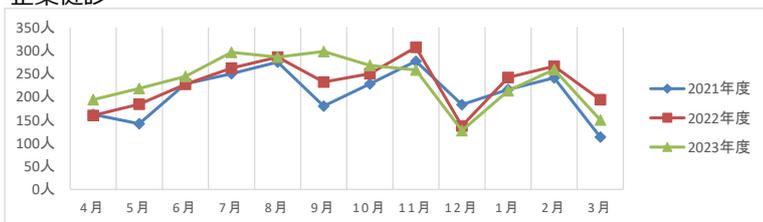
センター移設から2年目となり、運用面でも定着してきた年となった。実績においては、総受診者数の増加、なかでも協会けんぽ健診及び人間ドックは前年より1割増加となり、高単価健診が増えたことで増収にもつながった。

また、受診者からの満足度アンケートでは9割が高評価でリピーター率も高くなっている。保健師2名体制となり、生活習慣病予防に特化した特定保健指導も増加となった（2022年度：19.4% ⇒ 2023年度：41.0%）。より一層力を入れていきたい。

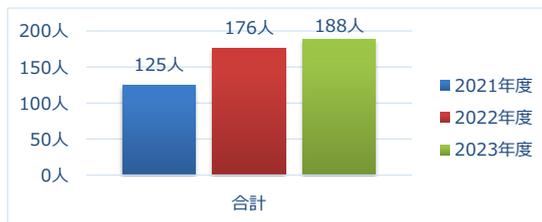
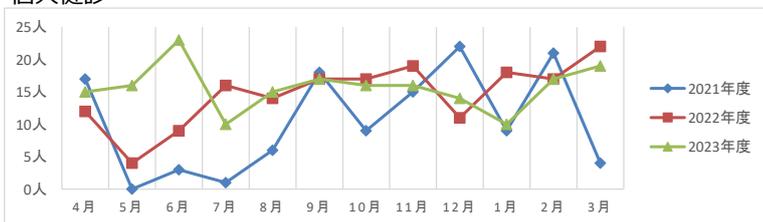
今後も質の高い信頼される健診センターを目指していく。

(ii).実績推移

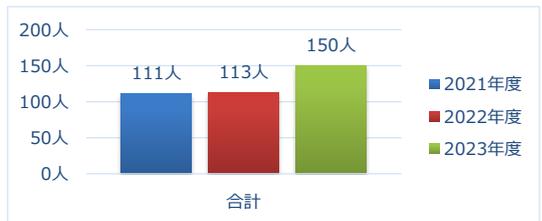
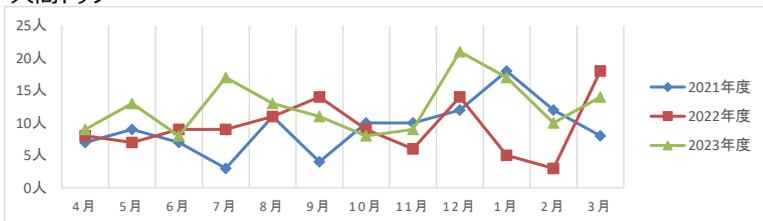
◆ 企業健診



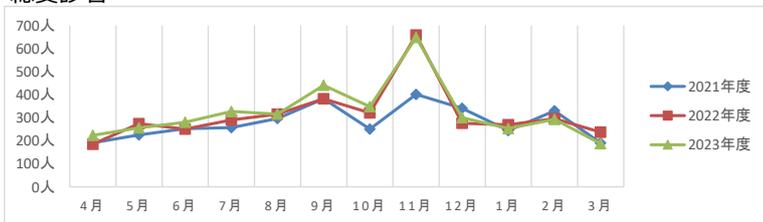
◆ 個人健診



◆ 人間ドック



◆ 総受診者



(iii).2023年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比		
															2023年度	2022年度	2021年度
企業健診	人	194	218	244	296	286	298	268	258	127	213	259	150	234.3	234.3	228.9	207.9
個人健診	人	15	16	23	10	15	17	16	16	14	10	17	19	15.7	15.7	14.7	10.4
人間ドック	人	9	13	8	17	13	11	8	9	21	17	10	14	12.5	12.5	9.4	9.3
総受診者	人	223	256	280	327	315	440	348	648	300	253	293	187	322.5	322.5	312.7	279.8

地域包括ケア推進室

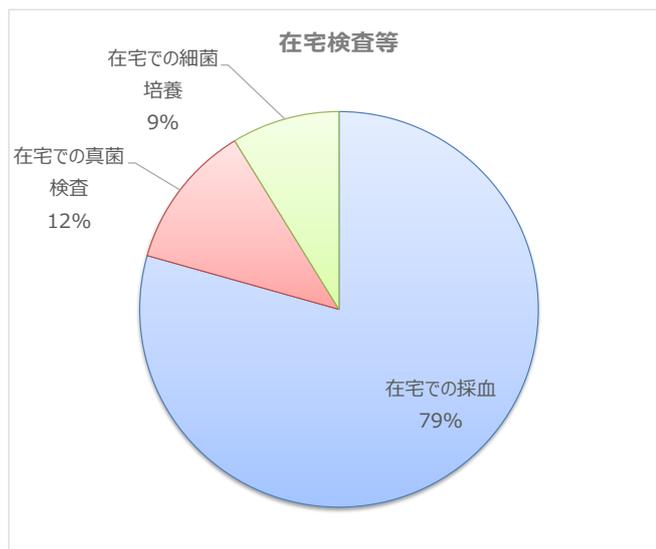
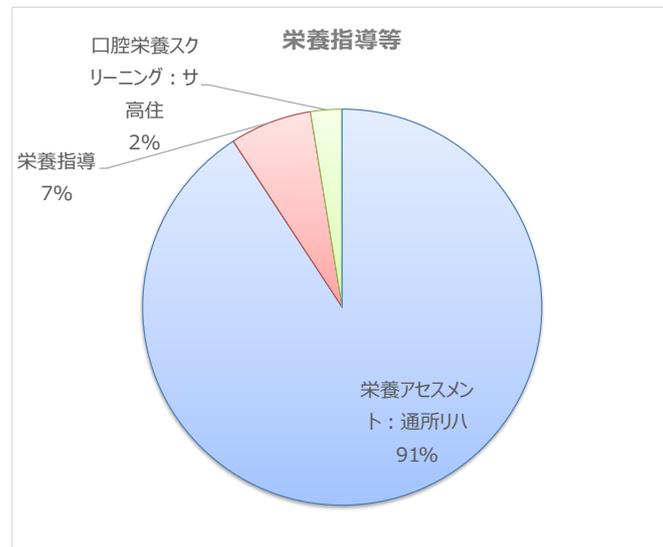
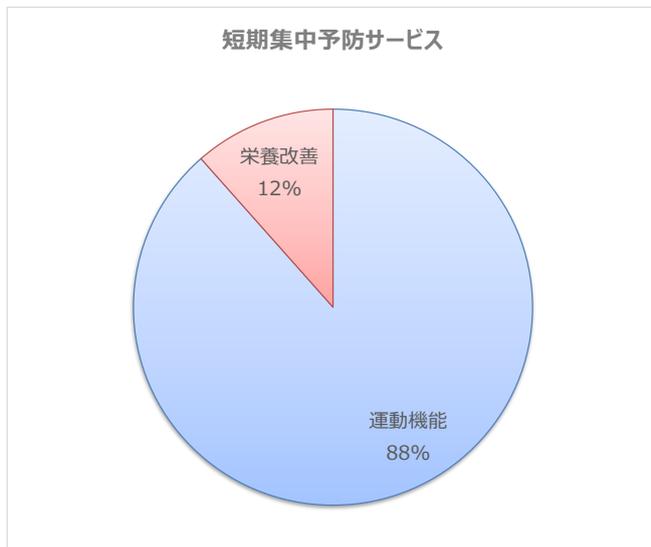
【職種別スタッフ数】 作業療法士 1名、臨床検査技師 1名、管理栄養士 1名

(i).総評

2023年度は、それぞれの専門職としての活動機会の拡充を目指し、関わる対象や関わり方の検討や実践を行ってきた。そのような活動を通して、少しずつではあるが、周知もされてきている所である。

次年度以降は当院での在宅医療の更なる推進体制の構築や法改正に伴い、職能としての関わりやタスクシフトなど、地域での活動機会の増加が見込まれる。当院の地域包括ケアシステム推進の一助となるよう、地域のニーズに合った活動を行ってきたい。

(ii).実績推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
運動機能（短期集中予防サービス）	11件	11件	21件	27件	27件	3件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	100件	8.3件
栄養改善（短期集中予防サービス）	2件	3件	2件	1件	0件	0件	0件	0件	0件	1件	2件	2件	13件	1.1件
栄養アセスメント：通所リハ（在宅療養管理指導）	120件	113件	34件	119件	49件	80件	117件	28件	81件	118件	85件	54件	998件	83.2件
口腔栄養スクリーニング：サ高住	28件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	28件	2.3件
口腔栄養スクリーニング：通所リハ	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0.0件
在宅での採血	8件	12件	9件	21件	21件	12件	15件	8件	8件	13件	14件	13件	154件	12.8件
在宅での真菌検査	2件	0件	1件	5件	4件	3件	3件	1件	3件	1件	0件	0件	23件	1.9件
在宅での細菌培養	0件	0件	1件	2件	4件	2件	0件	2件	2件	2件	1件	1件	17件	1.4件

委員会実績報告

医療安全管理委員会	44
院内感染予防対策委員会	45
褥瘡予防対策委員会	46
CS・ES委員会	47
研修委員会	48
地域広域リハ	50

医療安全管理委員会

(i).総評

医療安全管理部門では、医療安全に関する組織風土の確立・質の向上を図るため、全職員に対する研修を定期的・継続的に行うとともに新規・中途入職者に対する研修も計画的に行っている。

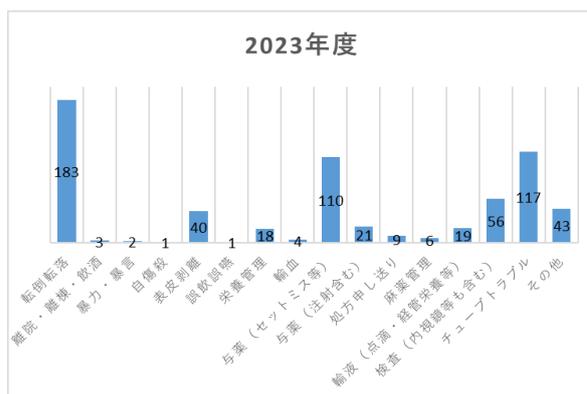
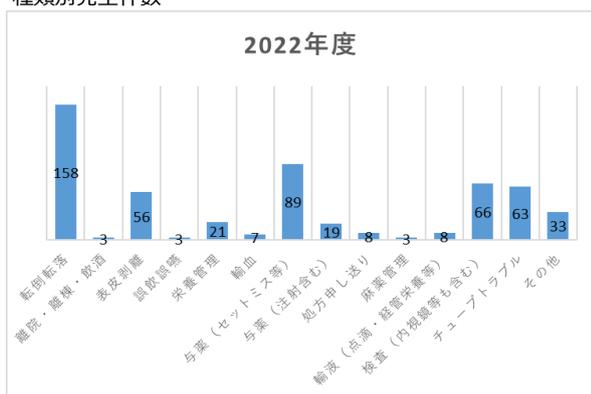
2023年度は、病院機能評価更新のための受審や他施設からの連携相互評価などイベントが多く、自施設での医療安全の成果を問われる出来事が多い1年間であった。

インシデント・アクシデント報告件数に関しては、昨年度（537件）より今年度（633件）が約100件ほど増加しており、多くの職員に報告の大切さが理解された結果であると感じている。

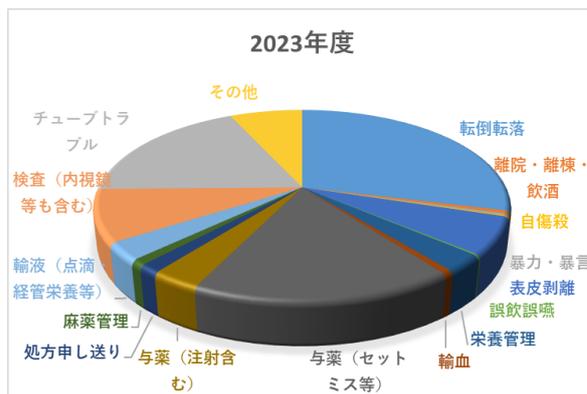
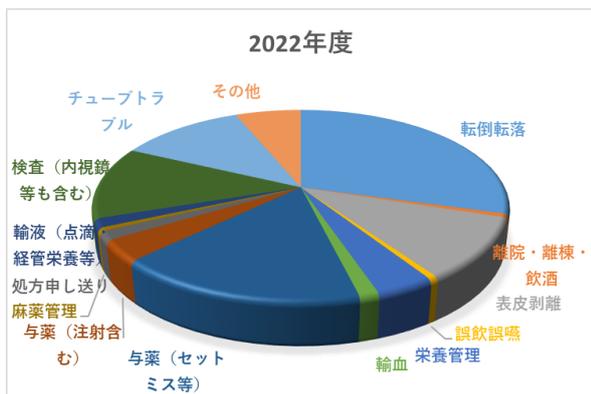
次年度は、病院機能評価や連携相互評価により抽出された課題を解決しつつ、病院全体で安全で質の高い医療の提供を目指していきたい。

(ii).2022年度 統計

◆ 種類別発生件数



◆ 種類別内訳



院内感染予防対策委員会

(i).総評

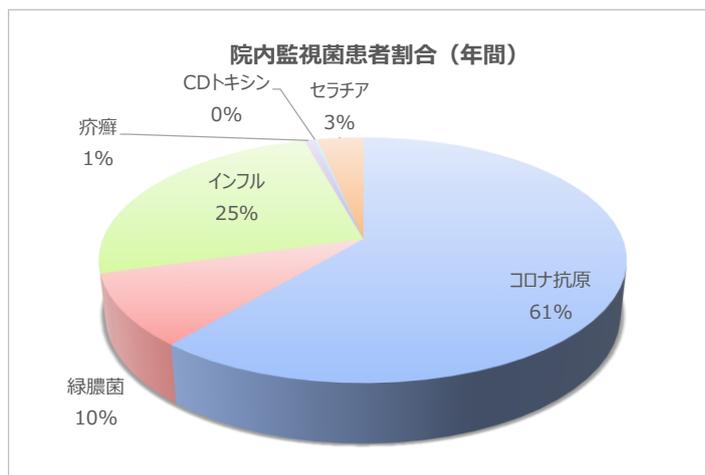
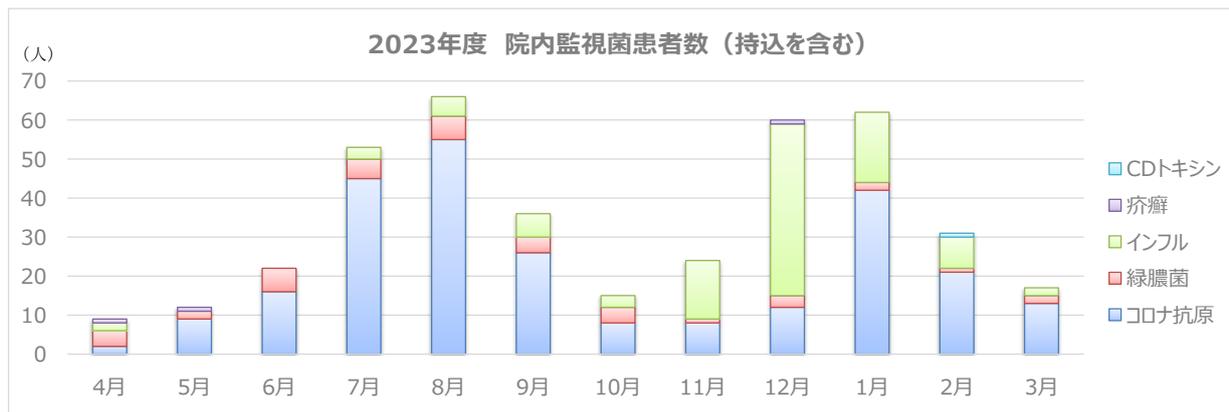
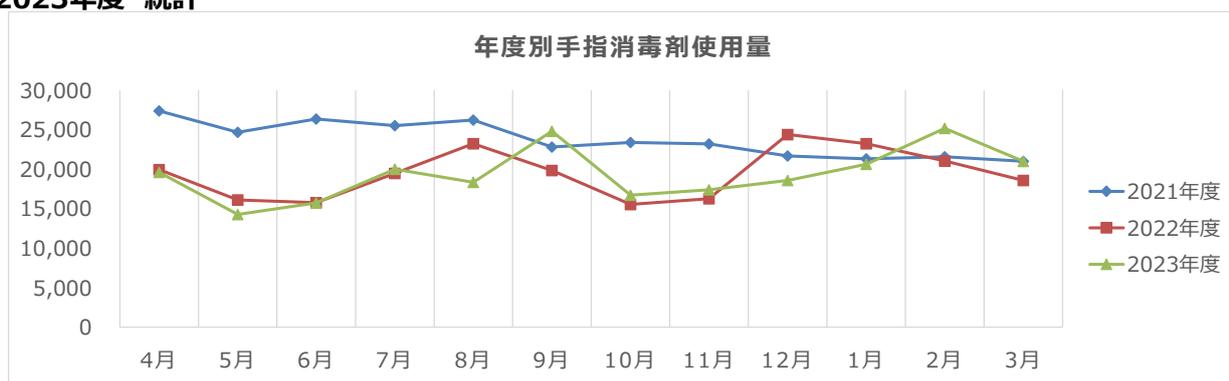
今年度の目標を、手指消毒使用量の前年度月別平均使用量（19,454ml）の10%（21,400ml）増加としていたが、結果として19,353mlという結果であった。2022年度より手指消毒剤を携帯する職員は増加しているものの、使用量は減少した。適切な場面での手指消毒が実施できているのか、次年度は検証していく必要がある。

これまで新型コロナ感染者受け入れのため6階病棟のみ陰圧装置を設置していたが、今年度3～5階の個室（1床）に陰圧装置を設置することができ、各病棟がより安全に感染予防対策を推進する一助となったと思われる。陰圧装置設置の個室の増加により、新型コロナ感染者の受け入れもスムーズにできるようになったと思われる。

2023年度の抗菌薬使用量は第一世代セファロスポリン系が最も多く、次いでペニシリン系、第三世代セファロスポリン系となっている。主な使用目的はSSI予防や肺炎（誤嚥性肺炎や市中肺炎など）、尿路感染症などであった。

前年度の培養検査実施率は、年間平均80%に満たなかった。培養検査提出していない要因として、整形外科疾患、消化器系疾患で材料の提出が困難な症例が多かったと思われる。

(ii).2023年度 統計



褥瘡予防対策委員会

(i).目標

今年度の目標は、褥瘡院内発生率2.3%以下を目指す（褥瘡1.4%以下、表皮剥離（スキンテア）0.9%以下）。
行動目標としては以下の4点である。

- ① スキンケアラウンド月1回（第2火曜）実施。その他火曜は皮膚科Drと専任Nsでラウンドし、指導や対策の検討を行う。
- ② 院内研修（ビデオ視聴）前期：当院採用中のエアマットについて / 後期：薬剤について
- ③ 毎月病棟別の発生率、原因を各病棟に発信、掲示する。発信は病棟の委員会スタッフで数日間行う。

(ii).結果

院内発生率1.4%（褥瘡0.8%、スキンテア0.5%）で大きく目標をクリアすることができた。前年度に取り入れたビリーブ®をフル稼働し、入院時から早期対策に努めた。エアマットに関しては、種類と適応について研修を行った。またマット選択基準を病棟の目につくところに掲示し、入院時に活用するよう呼びかけた。適切なマットが選択されていない場合は、ラウンド時にマット交換を依頼し、予防対策に努めた。

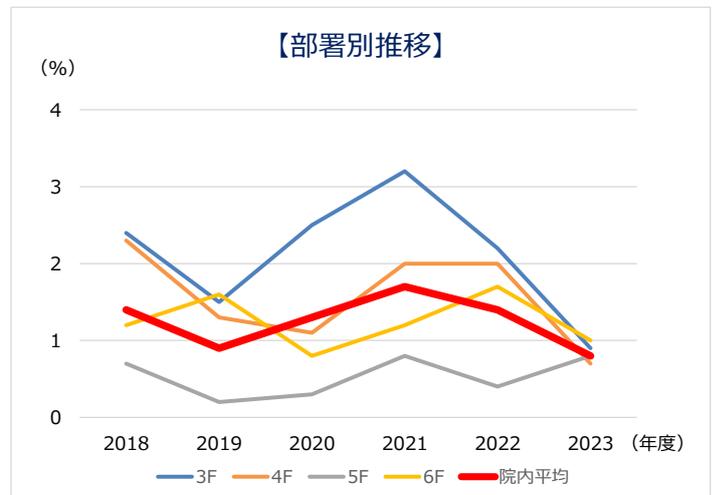
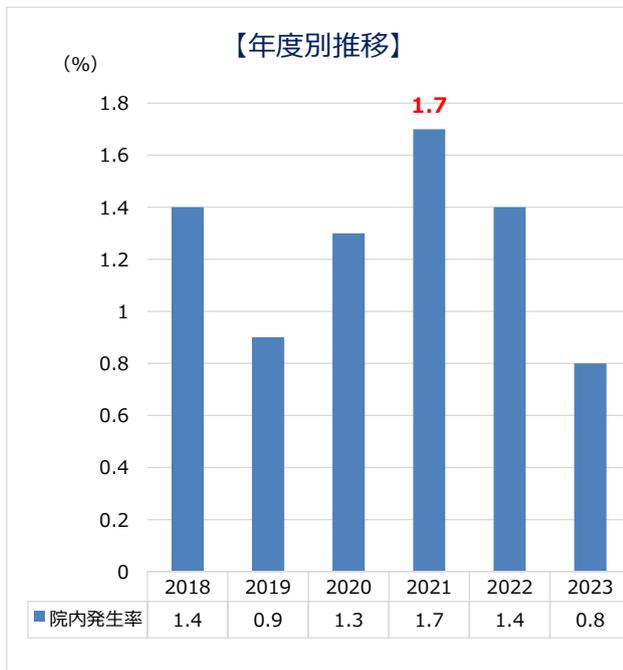
褥瘡発生部位として、臀部（仙骨と尾骨）と足部で、褥瘡発生要因としては医療機器関連創傷圧迫（以下MDRPUと略す）が目立っており、次いで疼痛による体動困難であった。MDRPUは、病棟別でみると、3Fと5Fが多く、3Fは脳血管障害の患者が対象であり、経管栄養によるマーゲンチューブやミトン装着による発生、5Fは医療機器を装着する機会が多く、カテーテルや酸素カニューラ装着による発生が目立った。スキンテアに関しては減少傾向であるが、同一患者に発生している症例もあった。

(iii).次年度に向けての課題

ココロール®を予防的使用にも関わらず褥瘡が発生している症例も多い。その中でも弾性ストッキングや包帯による圧迫が原因での褥瘡発生が今後の課題と考える。医用機器装着時からの予防策徹底を周知していく。また、体動困難者でも、入院時からの早期対策が重要であり、マット選択や介助グローブの活用など予防策について引き続き継続指導する。当院は院内発生数よりも、持ち込み数が増加し、またその深達度も深い。今後も褥瘡等発生リスクの高い患者が増加していくと予測され、地域の連携先スタッフと共に病棟スタッフの褥瘡ケアのスキルアップを図る必要がある。

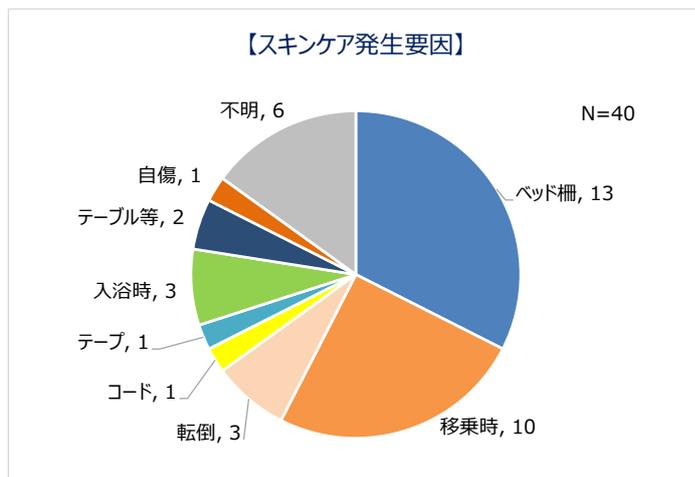
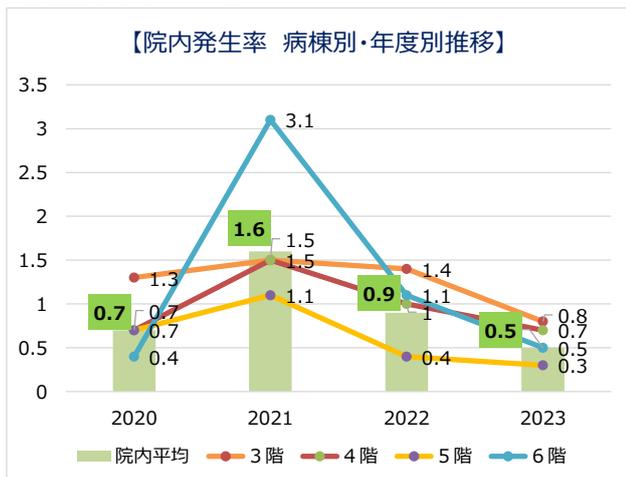
(iv).2023年度 統計

◆褥瘡院内発生率



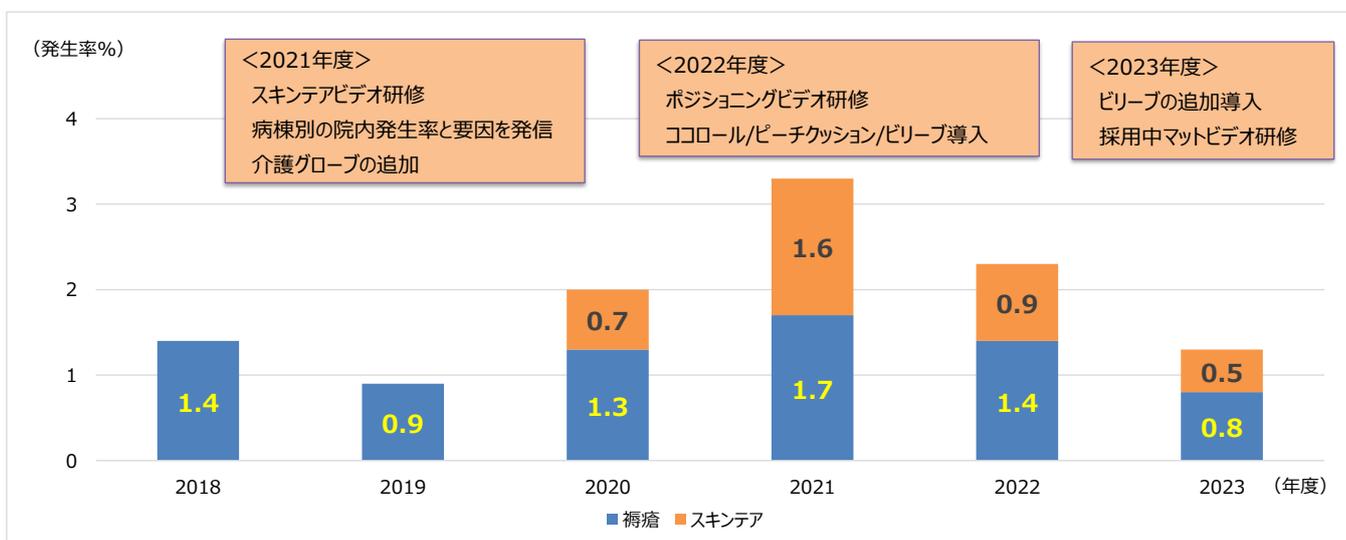
	2018	2019	2020	2021	2022	2023
3F	2.4	1.5	2.5	3.2	2.2	0.9
4F	2.3	1.3	1.1	2	2	0.7
5F	0.7	0.2	0.3	0.8	0.4	0.8
6F	1.2	1.6	0.8	1.2	1.7	1
院内平均	1.4	0.9	1.3	1.7	1.4	0.8

◆スキンケアについて



2020年4月～スキンケアも褥瘡として算出

◆年度別褥瘡・スキンケア院内発生率推移



CS・ES委員会

(i).総評

2023年度は「職員・患者さん、利用者さんの満足度を高めるための取り組みを継続し行い、安心・笑顔の職場造りを目指す」という年間目標をもとに活動を行った。

ご意見箱を通じて年間26件のご意見を頂いた。内訳は診察・会計に関する待ち時間が15%、接遇面に関して15%、環境不備が58%、お褒めの言葉が12%となった。環境に関する要望が多く挙げられ、内容は入院生活を満足に遅れるようなものが多かった。コロナウイルス感染の影響もあり、面会や病棟生活が制限されているストレスを軽減できるような対策を関係部署と連携し、対策を講じた。

接遇研修はWEB研修にて実施している。受講率は全職員の78%となっている。

4期目となるES(従業員満足度)アンケートは継続的に行いながら、改善可能な課題の抽出を行っていき、働きやすい職場創りを目指している。

(ii).活動状況

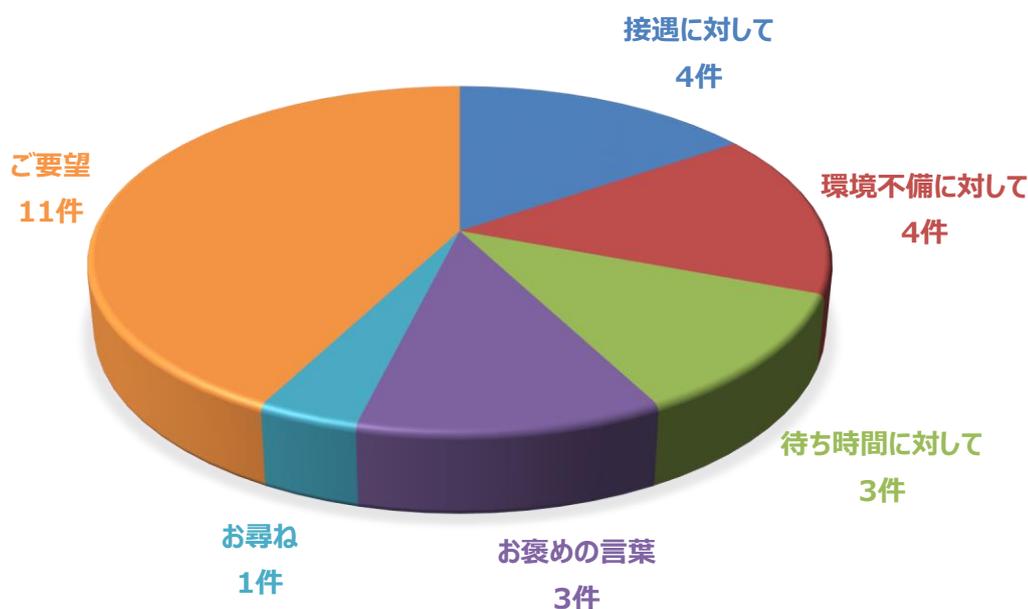
< 勉強会 >

期日	内容	参加人数
2024年2月1日～29日	医療スタッフ向け接遇研修 「接遇・マナーの基本～患者・家族へのかかわり方～」	309人

< ご意見・要望内容 (一部) >

- ・診察や会計待ち時間について改善を求めます
- ・病棟にWi-Fiの設置をお願いしたい
- ・病室で見るテレビ代が高すぎます
- ・約3年近くになりますが、受付の皆さんの対応が良くて嬉しかったです。
- ・先生、スタッフの方々とても対応が良いと思います

(iii).2023年度 ご意見内訳



研修委員会

(i).総評

2023年度における研修委員会の活動は、前年度に引き続きWEBによる研修が主であったが、一部対面での発表会を行うなど少しずつ以前の形での活動が行えるようになってきた。

新人研修は、4月にオリエンテーションを実施。対象者20名参加。11月と3月にフォロー研修を実施した。中途入職者研修は、主催を総務に引き継ぎ、毎月1回実施した。

中間管理職者研修は、ハラスメント研修や人事考課制度を実施。人事考課に関する研修では1次考課者に評価基準の統一を図った。院内研究・改善活動発表会は、2月に4年ぶりに対面で開催することができた。6名が発表し参加者は約70名、会場の雰囲気も緊張感があり日頃の活動を発表する良い機会となった。3月の全体朝礼で発表者に表彰を行った。

全職員対象の研修に関しては、各委員会を通じて其々のテーマで総数15回行った。参加率は平均86.2%であった。実施方法としてe-ラーニングの活用も広がっており、約半数（46.6%）の研修をこれで実施することができた。

今後としては、e-ラーニングによる研修では参加率が低下しやすい事が分かった。参加率を上げるためのアナウンスの工夫を行う事を周知していく。また、職員を対象とした知識向上を目的とした研修を企画して行っていく。

(ii).活動状況

		研修名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
時間内	シリーズ 中間管理職	テーマ		ハラスメント研修										人事考課研修	
		講師		弁護士 瓦林道広先生											中尾・島崎
		日付		5/15											3/2
	新人研修	テーマ	新入職員 オリエンテーション								8ヶ月後 フォロー研修				12ヶ月後 フォロー研修
		日付	4/3・4・7								11/11				3/29
		参加率	20名								8/9名 (89%)				8/9名 (89%)
	中途採用者研修	テーマ		中途入職者 オリエンテーション	中途入職者 オリエンテーション	中途入職者 オリエンテーション	中途入職者 オリエンテーション	中途入職者 オリエンテーション	中途入職者 オリエンテーション	中途入職者 オリエンテーション	中途入職者 オリエンテーション	中途入職者 オリエンテーション	中途入職者 オリエンテーション	中途入職者 オリエンテーション (前月欠席 3名含む)	中途入職者 オリエンテーション
		日付			6/5	7/3			9/4		11/13		1/15	2/19	3/11
		第2月曜 (9:00~12:30)	参加率		対象者なし	8/8名 (100%)	4/4名 (100%)	対象者なし	4/4名 (100%)	対象者なし	2/2名 (100%)	対象者なし	2/5名 (40%)	6/3名 (200%)	2/2名 (100%)
	ランチョンセミナー	ランチョンセミナー 発表掲示	テーマ	開催未定						発表・伝達 掲示	発表・伝達 掲示	発表・伝達 掲示	発表・伝達 掲示	発表・伝達 掲示	災害対応 研修
									発表・伝達 掲示	発表・伝達 掲示	発表・伝達 掲示	発表・伝達 掲示	伝達研修		
院内研究	院内研究	テーマ												院内研究 発表会 Or 業務改善 報告会	
	学会発表	学会名	日本泌尿器 科学学会 日本超音波 検査学会 九州地区消 化器内視鏡 学会 日本内科学 会	日本医学検 査学会 日本脳神経 外科学会 日本麻酔科 学会 日本消化器 病学会	日本語聴 覚士学会 九州作業療 法士学会 日本リハビ テーション医 学会 日本皮膚科 学会	日本人間 ドック学会 日本手術 看護学会 九州地区 日本義肢 装具士協 会	日本褥瘡 学会	日本糖尿 病理学療 法学会 日本作業 療法学会	日本超音波 検査医学会 日本骨粗鬆 症学会	日本医療薬学 会 日本基礎理 学療法学会	日本臨床 薬理学会	リハビリ 学会	慢性期リハ ビテーション学 会 日本臨床栄 養代謝学会 日本人工関 節学会		

		研修名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
時間内・時間外	全体研修会（必須）	（目標） 担当職務に必要な知識、技能について各人の能力水準を組織的、継続的に発展させ以て医療と看護の質の向上に資する	テーマ		医療安全管理委員会資料			バリエーション研修資料	褥瘡予防資料	緩和ケアYouTube	倫理・人権YouTube	感染予防e-ラーニング	情報セキュリティYouTube	接遇e-ラーニング	医療安全e-ラーニング	
			主催		医療安全管理委員会			総務課	褥瘡予防対策委員会	緩和ケア委員会	研修委員会	院内感染予防対策委員会	診療システム係	CS・ES委員会	医療安全管理委員会	
			日付		5/1～5/21			8/10～8/31	9/15～9/30	9/25～10/27	11/14～12/14	12/20～1/20	1/11～2/8	2/1～2/29	3/8～3/31	
			参加者数		388名			288名	252名	357名	327名		393名	309/396	311/388	
			参加率		100.0%			73.0%	92.0%	85.0%	86.0%		100.0%	78.0%	80.2%	
			テーマ		医療機器資料				骨粗鬆症とFLS e-ラーニング	個人情報e-ラーニング	NST研修e-ラーニング	緩和ケアe-ラーニング			BLS各部署実技	
			主催		医療安全管理研修				骨粗鬆症チーム	総務課	NST研修チーム	3階病棟石村			医療安全管理委員会	
			日付		5/29～6/10				9/20～11/30	10/10～10/31	11/30～12/30	10/30～11/30			2/15～2/21	
			参加者数		378名				323名	330名	278名				364名	
			参加率		92.0%				85.0%	87.0%	67.0%				96.6%	
時間外	全体研修会	にしくまカフェ	テーマ												褥瘡	
			日付													3/14
			講師													山下 直子先生

熊本地域リハビリテーション広域支援センター

(2023年度熊本県委託事業)

【職種別スタッフ数】 作業療法士 1名、臨床検査技師 1名、管理栄養士 1名

(i).総評

新型コロナも年度初頭に5類へと移行し、地域での通いの場などの活動が活発化する中、派遣依頼も増加し、圏域内での派遣調整の業務量も増加はしたが、関係機関との協力の元、対応を行った。

通いの場での介護予防活動は更なる活発化が予想されるが、2023年度より区の地域包括ケアシステム推進会議の委員となり、区の介護予防体制についても協議・検討出来る体制となったため、行政も含めた関係機関との連携を深めながら、効果的・効率的な支援が提供できるよう進めていきたい。

また、高齢者のみならず、小学生の総合学習など多世代における支援の実施の機会も、少しずつではあるが増加しているため、地域包括ケアシステムの観点からも地域づくりに貢献できる活動を推進していきたい。

(ii).活動状況

1. 介護予防事業所等のサービスの質の向上への支援

(1) 研修会開催状況

開催日	研修会名称	概要（テーマ、講師、参加者、参加人員）
令和5年8月25日	第2回南区通いの場交流会	テーマ：ホスト会場と地域の会場5カ所をオンラインでつなぎ、通いの場に関する意見交換等を実施 参加者：くまもと元気くらぶ、通所B、いきいき百歳体操実施団体 参加者5会場 28団体29名、地域密着リハセンター4か所も参加
令和6年3月27日	介護予防関連研修会	テーマ：サロン活動等で実施されている体操について 参加者：ケアマネジャー、介護関連事業所など 25事業所 計35名

(2) 相談対応

電話・メール・Web 9 件
来所 3 件
出張 2 件

【職種別スタッフ数】

職種	人数	職種	人数
医師	1	理学療法士	12
作業療法士	5	言語聴覚士	2
管理栄養士	1	臨床検査技師	1

(3) 関係団体・機関等との連絡会議（2回）

開催時期	主なテーマ
1回 7月5日	「熊本地域リハビリテーション広域支援センター連絡会（オンライン開催）」 参加者：地域密着リハセンター8か所 15名、南区福祉課 4名 ・検討、報告事項 ① 熊本市地域リハ活動支援事業の内容変更について ② 熊本市地域リハ活動支援事業の実施について ③ 南区オンライン通いの場交流会の開催について ④ 介護予防サポーターの活動推進に向けて ・その他 ① 南区地域包括ケアシステム推進会議（介護予防分野）実務者会議開催について ② 「地域連携ミーティング」開催について
2回 3月27日	「熊本地域リハビリテーション広域支援センター連絡会」 対象者：南区福祉課、南区地域包括支援センター、地域密着リハセンター 計33名 内容： ① 地域リハ広域支援センター 指定更新について ② 地域リハ広域支援センター 令和5年度実績報告及び令和6年度事業計画について ③ 地域密着リハセンター 令和5年度実績報告及び令和6年度事業計画の提出について ④ 運動器入力ソフトの改修について

(4) リハビリテーション専門職の派遣調整（154回）

① 広域支援センター職員派遣	148回、延べ183人
② 地域密着リハビリテーションセンター職員派遣	69回、延べ49人
③ その他の機関の派遣調整	0回、延べ0人

(5) 災害時のリハビリテーション活動への協力

*実績なし

2. 市町村の地域支援事業等への効果的な支援

(1) 個人宅への派遣

*実績なし

(2) 事業所への派遣

*実績なし

(3) 通いの場（サロン等を含む）への派遣

依頼元	派遣回数	実施内容	備考
熊本南1地域包括支援センター	4	体力測定・結果フィードバック、体操指導 等	脳の健康教室（通所B）
熊本南1地域包括支援センター	8	通いの場活動支援	計6団体
熊本南1地域包括支援センター	1	第2回富合校区サロン活動報告会	
熊本南5地域包括支援センター	2	通いの場活動支援	
熊本南6地域包括支援センター	6	通いの場活動支援	計3団体
城南老人福祉センター	11	イキイキ健康教室での体操指導、講話 等	
富合校区社会福祉協議会	1	富合サロン交流会	
熊本市社会福祉協議会南区事務所	1	令和5年度ふれあい・いきいきサロン研修会	
熊本市	15	体力測定・結果フィードバック、体操指導 等	くまもと元気くらぶ、計8団体

(4) 地域ケア会議等への派遣

依頼元	派遣回数	実施内容	備考
熊本市南区	26	自立支援型地域ケア会議助言者	PT延べ8人 OT延べ16人 管理栄養士延べ13人
熊本南2地域包括支援センター	1	課題検討型地域ケア会議助言者	

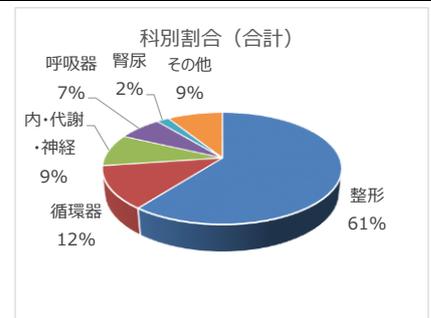
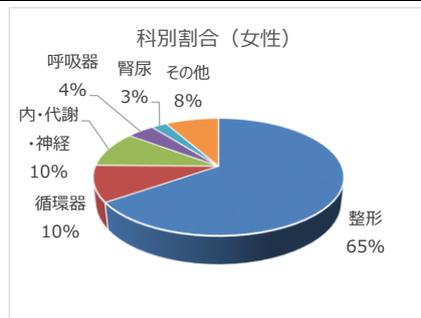
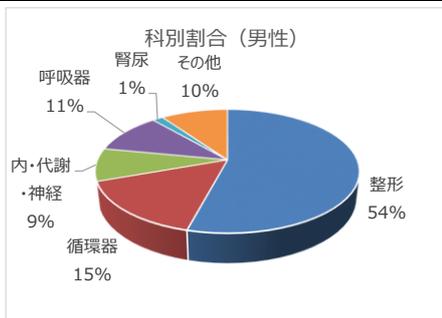
(5) その他

依頼元	派遣回数	実施内容	備考
熊本市南区福祉課	2	南区地域包括ケアシステム推進会議	
熊本市南区福祉課	10	南区地域包括ケアシステム推進会議実務者会議	介護予防関連1回 医療介護連携関連9回
熊本市南区	1	自立支援型地域ケア会議アドバイザー意見交換会	
熊本市南区地域包括支援センター	2	南区生活支援コーディネーター連絡会	すべて集合形式
熊本南1地域包括支援センター	4	地域運営協議会・協議体	すべて集合形式
熊本南1地域包括支援センター	10	多職種連携ネットワーク会議	すべてオンライン開催
熊本南1地域包括支援センター	12	富合まちの輪ネット	すべてオンライン開催
熊本南1地域包括支援センター	5	富合小学校4年生総合学習支援	
熊本南2地域包括支援センター	1	運営協議会専門部会	オンライン開催
熊本南3地域包括支援センター	1	ケアマネジャースキルアップ研修	オンライン開催
熊本市内地域リハ広域支援センター	4	熊本市内地域リハ広域支援センター連携会議	すべてオンライン開催
熊本県医師会	2	運動器機能評価システムワーキング会議	すべてオンライン開催

ICD-10大分類による年齢別・性別統計（退院患者）

期間：2023年4月1日 ～ 2024年3月31日

2023年度													2022年度	2021年度	2020年度
No	大分類	性別	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳～	合計			
1	感染症および寄生虫症	男	1	0	0	0	0	0	3	2	0	6	12	5	4
		女	0	0	0	0	0	0	1	2	2	5	11	8	6
		計	1	0	0	0	0	0	4	4	2	11	23	13	10
2	新生物	男	0	0	0	0	0	2	1	5	2	10	13	17	19
		女	0	0	0	0	0	0	4	7	1	12	12	14	21
		計	0	0	0	0	0	2	5	12	3	22	25	31	40
3	血管および造血系の疾患ならびに免疫機構の障害	男	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	2	4
		女	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	5	1	7
		計	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	7	3	11
4	内分泌、栄養および代謝疾患	男	0	0	0	2	0	3	4	6	2	17	13	16	16
		女	0	0	0	0	0	2	1	14	6	23	13	9	10
		計	0	0	0	2	0	5	5	20	8	40	26	25	26
5	精神および行動の障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
6	神経系の疾患	男	0	0	0	0	3	4	3	3	2	15	10	12	13
		女	0	0	0	1	0	6	3	7	1	18	20	18	22
		計	0	0	0	1	3	10	6	10	3	33	30	30	35
7	眼および付属器の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	耳および乳様突起の疾患	男	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4	1	0
		女	0	0	0	0	0	2	6	1	1	10	4	0	1
		計	0	0	0	1	0	2	6	1	1	11	8	1	1
9	循環器系の疾患	男	0	0	0	3	3	17	26	28	13	90	67	69	72
		女	0	0	0	6	4	1	13	34	17	75	66	64	62
		計	0	0	0	9	7	18	39	62	30	165	133	133	134
10	呼吸器系の疾患	男	1	0	1	0	1	4	15	23	17	62	47	26	32
		女	0	0	0	0	0	0	1	16	15	32	25	27	34
		計	1	0	1	0	1	4	16	39	32	94	72	53	66
11	消化器系の疾患	男	0	0	0	0	1	2	2	11	2	18	13	30	15
		女	0	1	0	0	0	0	10	15	8	34	22	21	30
		計	0	1	0	0	1	2	12	26	10	52	35	51	45
12	皮膚および皮下組織の疾患	男	0	0	2	0	1	6	2	9	3	23	24	20	17
		女	0	0	0	0	1	2	5	9	8	25	28	21	26
		計	0	0	2	0	2	8	7	18	11	48	52	41	43
13	筋骨格系および結合組織の疾患	男	0	1	1	3	7	34	51	27	4	128	124	104	94
		女	0	0	2	4	14	37	73	37	13	180	187	189	200
		計	0	1	3	7	21	71	124	64	17	308	311	293	294
14	腎尿路生殖系系の疾患	男	0	0	0	0	0	1	0	6	2	9	16	12	10
		女	0	0	0	0	0	1	1	7	9	18	24	24	16
		計	0	0	0	0	0	2	1	13	11	27	40	36	26
15	妊娠、分娩および産じょく	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	周産期に発生した病態	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	先天奇形、変形および染色体異常	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0
18	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	損傷、中毒およびその他の外因の影響	男	7	6	7	16	21	23	51	47	10	188	158	157	151
		女	1	3	4	3	16	30	70	119	67	313	267	254	218
		計	8	9	11	19	37	53	121	166	77	501	425	411	369
20	傷病および死亡の外因	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22	特殊目的用コード (新型コロナウイルス感染症)	男	0	0	0	1	0	2	1	11	1	16	28	25	
		女	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4	8	29	15
		計	0	0	0	1	0	2	2	14	5	24	57	40	
合計		男	9	7	11	25	37	96	158	168	57	568	503	472	447
		女	1	4	6	14	35	81	189	269	148	747	687	651	655
		計	10	11	17	39	72	177	347	437	205	1315	1190	1123	1102



編集後記



事務部 部長 山川 倫旦

2023年度の取り組みと成果をまとめた年報をお届けいたします。
数年間世界を揺るがしたパンデミックの感染問題も、2023年5月の5類感染症への移行を機に、少しずつ日常を取り戻し始めました。医療や介護の運営や、地域社会や地域住民の健康増進に向けた健康教室や実習生受入れなどの支援活動を徐々に再開することができた1年でした。

事務部門は、医事課や総務課、施設購買課等だけでなく、医師の診療などのサポートを行う診療サポート課、経営指標を管理する医療情報課、地域や行政との橋渡しを担う地域包括ケア推進室など10部署約60人の事務スタッフで成り立っています。そして5月は新たに事務管理室を開設し、様々な問題に対しサポートできる体制をも整えました。

2023年10月には2回目の日本医療機能評価機構の更新審査を行い、認定病院（3rdGver.3.0）として評価を受けることもできました。

これから、少子高齢化や経済不況、DX化など医療を取り巻く世界もめまぐるしく変わることが予想されます。私たち事務部は、その変わりゆく現状に対応すべく、病院スタッフのサポート部門として、並びに地域の皆様の為より良い医療環境の構築に向けて邁進してまいります。

にしくまもと病院 2023年度（令和5年度）年報

発行：医療法人相生会 にしくまもと病院
〒861-4157 熊本市南区富合町古閑1012番地
TEL:096-358-1118 FAX:096-358-1099
発行日：2024年 12月
編集：事務管理室



にしくまもと病院